

使用済小型家電回収に関わる市民意識の事例

- ①モバイルリサイクルネットワーク 市民意識アンケート (H19)
- ②平成19年度東北経済産業局調査 市民意識アンケート (抄録)

「携帯電話・PHSのリサイクルに関するアンケート調査結果」

電気通信事業者協会

情報通信ネットワーク産業協会

携帯電話・PHSのリサイクルに関する アンケート調査結果

電気通信事業者協会
情報通信ネットワーク産業協会

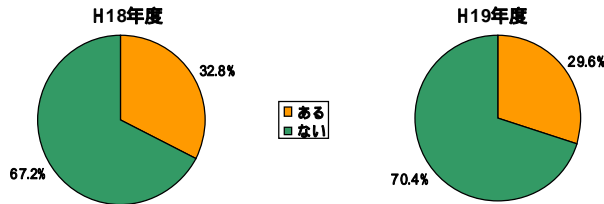
【調査概要】

1. 調査目的 平成19年度の携帯電話・PHSのリサイクル実績報告をまとめるに当たって、回収台数などの数値指標の背景にある利用者の意識、行動を把握する。
2. 調査方法 インターネットによるアンケート調査
3. 調査期間 平成20年5月上旬
4. 調査対象 有効回答数2,000人
 - (1)男女別 男性1,000人、女性1,000人
 - (2)年齢別 14歳以下 1.0%、15～19歳 24.1%、
20～29歳 25.0%、30～39歳 25.0%、
40～49歳 14.3%、50～59歳 8.6%、
60歳以上 2.2%

【調査結果(抜粋)】

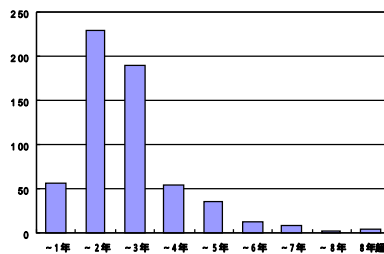
過去1年間に買換・解約で端末を処分したことがあるか？

端末処分の有無



過去1年間(平成19年4月～平成20年3月)に、買換・解約で端末を処分したことがある人が29.6%で、過去4年間減少し続けている。
これは、処分せずに保有してる人が年々増えていることを示している

使用期間(H19年度)



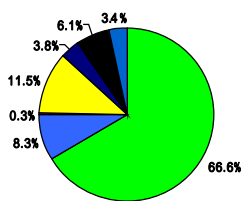
過去1年間に処分した端末の平均使用期間は2年10ヶ月となる。
18年度は2年8ヶ月、17年度は2年6ヶ月、16年度は2年4ヶ月だったことと比べると端末の使用期間は年々伸びているのが分かる。

2008/6/24

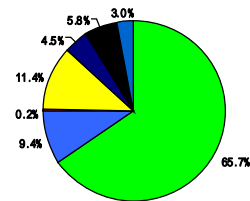
2

どのように処分したか？(携帯電話・PHS)

本体



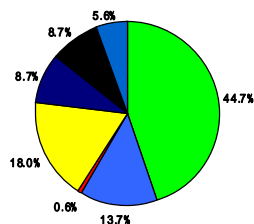
電池



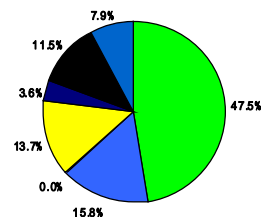
■ 店で引き取ってもらった ■ 分別ゴミとして捨てた ■ 回収業者へ引き渡した ■ 人にあげた
■ 中古品として売却した ■ 分別ゴミとして捨てた ■ その他

本体、電池に比較して、充電器類の回収率が低い。本体・電池は65%以上あるが、充電器類は50%を割っている。
但し、昨年度(本体・電池 60%、充電器類 40%)よりは増加している。

充電器(ACアダプタ)



充電器(車上ホルダー)

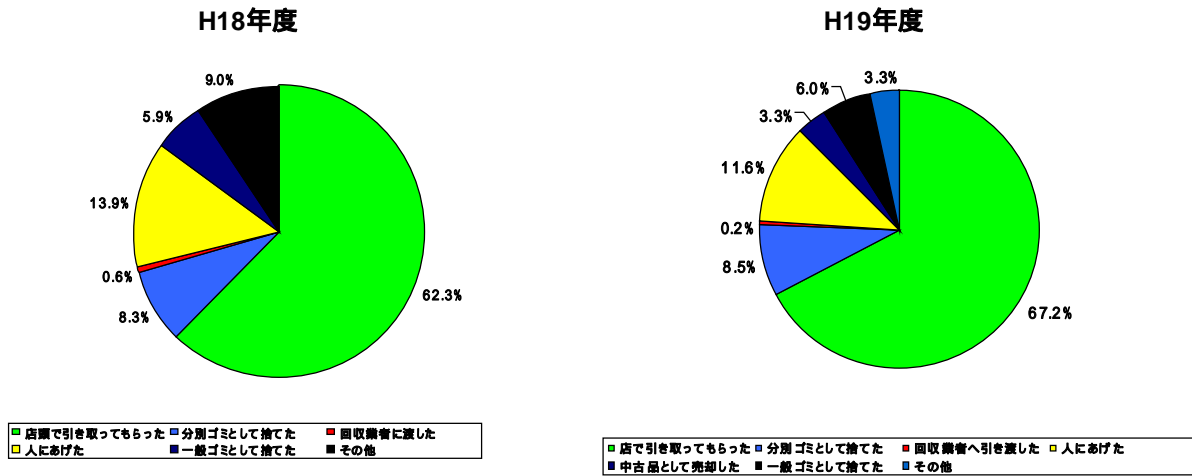


ACアダプタは事業者内の共通化が進展していることもあって、「人にあげた」(18%)「中古品として売却した」(8.7%)の比率が高い。

2008/6/24

3

どのように処分したか？ (携帯電話本体の昨年度との比較)

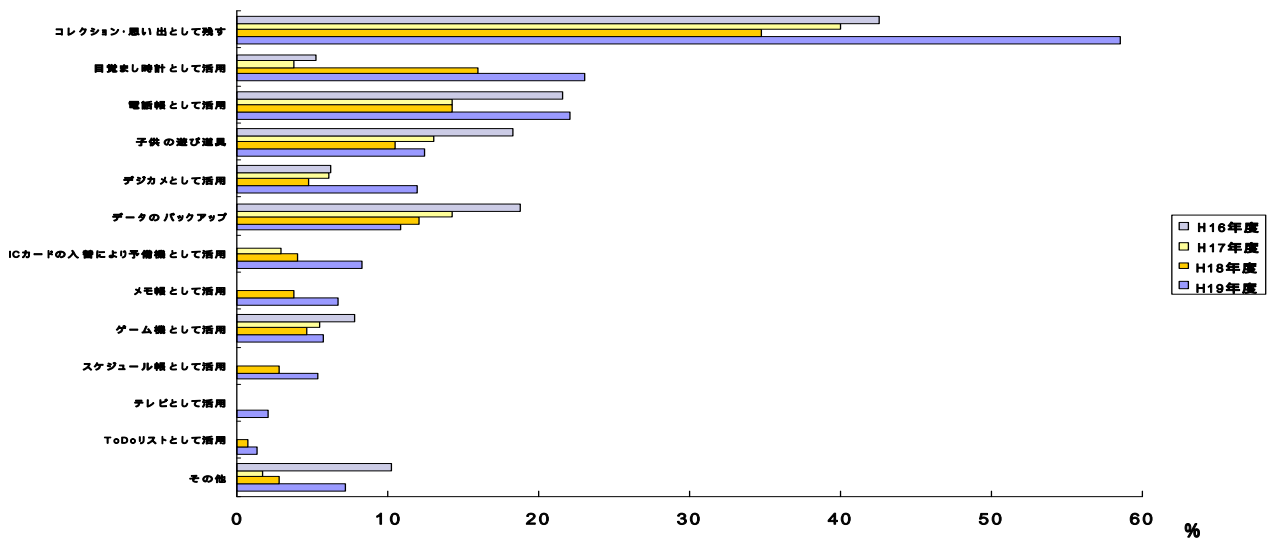


「ショップ店頭で引き取ってもらった」(リサイクルに協力した)比率が62.3%から67.2%に増加している。
 今回の調査より選択肢として「中古品として売却した」を追加した結果、3.3%の回答があった。

2008/6/24

4

通信以外で利用している理由は？ (複数回答)

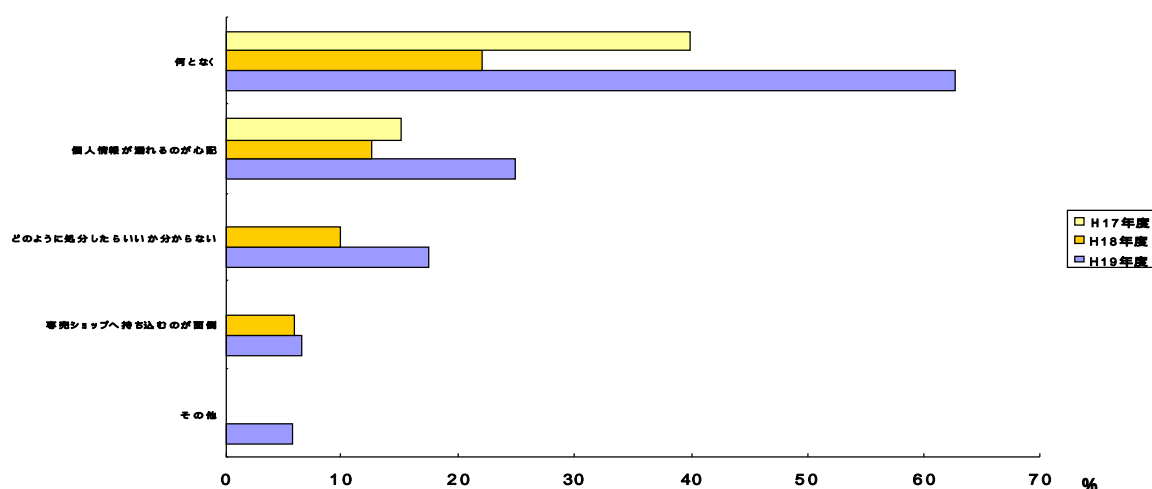


前年度の調査とほぼ同様な傾向で、「コレクション・思い出として」(58.6%)がトップとなり、10代、20代を中心に携帯・PHS端末への愛着の強さが伺える。
 また、昨年度に引き続き、端末の多機能化・高機能化により、「目覚ましとして利用」(23.0%)、「電話帳として利用」(22.1%)、「データのバックアップ」(10.9%)なども高い比率となっている。
 今回より新たに設けた設問で「テレビとして活用」は2.1%となっている。

2008/6/24

5

現在利用していないもので保有している理由は？(複数回答)



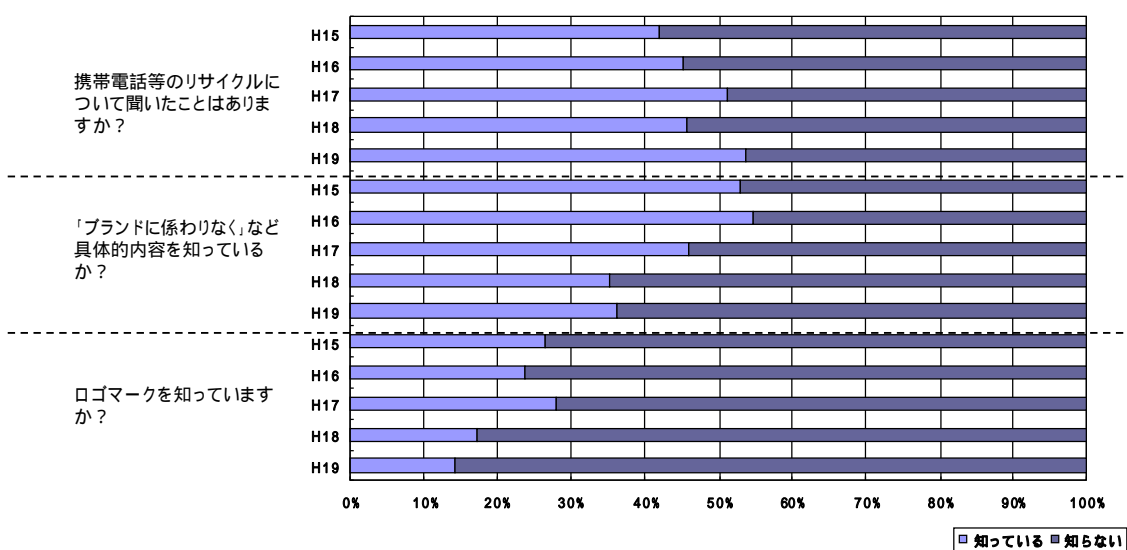
個人情報保護のセキュリティに対する不安は、「個人情報漏れるのが心配」が24.8%と、高い比率になっている。

「何となく」という回答は62.7%に上っている。例年同様に比率が高く、理由がなく保有している状況は更に多くなってきている。

2008/6/24

6

モバイルリサイクルの認知度は？

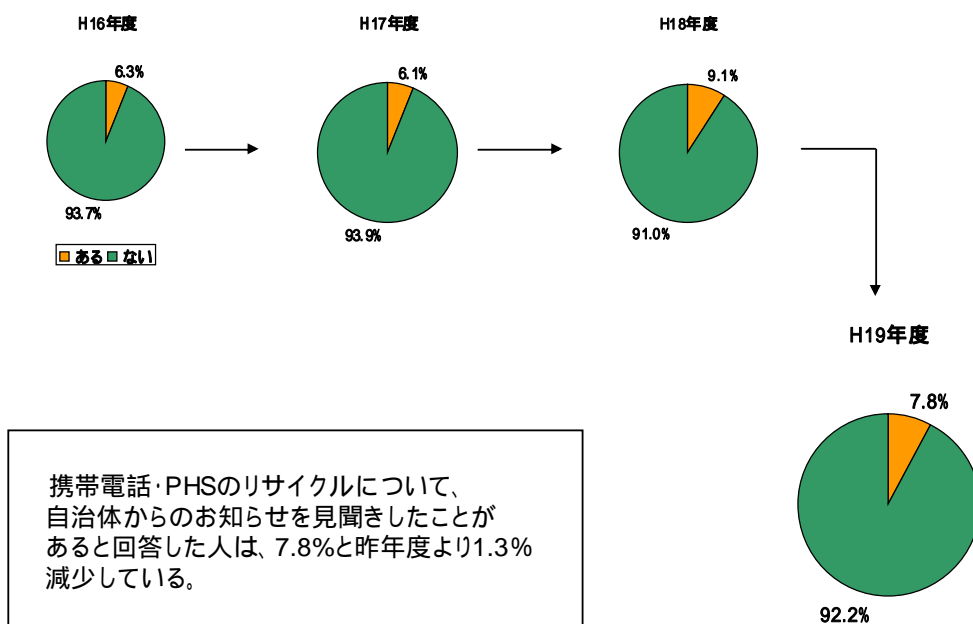


携帯電話・PHSのリサイクルについての認知度は、本年度の調査では「知っている」人の比率が53.8%と5割を若干上回ったものの、モバイルリサイクルネットワークの具体的な活動内容(メーカー、ブランドを問わず携帯ショップ等で回収を行っている)は、未だ認知率が低い。今後更に努める必要がある。

2008/6/24

7

自治体からのお知らせの有無



2008/6/24

8

【調査結果の集約と今後の対応(1)】

携帯電話・PHSのリサイクルに対する認知度は、増加してはいるものの、まだ半数程度の人には認知されていない。

ゴミとして処分した人の比率が昨年度と変わらず、当該回答者の5割弱の人は携帯・PHS端末がリサイクルされているとの認識がなかったと回答している。

携帯・PHSのリサイクルについて、ゴミ収集・リサイクル回収を周知している自治体からのお知らせを見聞きした人が昨年度に引き続き極めて少ない。

携帯・PHS事業者は、使用済み端末のリサイクル活動を積極的に推進しているが、専売店等においてブランドを問わず回収活動を実施していることをより一層PRしていく必要がある。

また、端末の買換・解約時にショップ店頭での案内を強化すると共に、製品カタログ、取扱説明書、ウェブサイト等による周知、媒体広告など強化を図る。

行政と連携した使用済み端末回収活動の推進
(資源回収パンフレットのゴミではない項目に携帯電話・PHSを追加記載等)

2008/6/24

9

【調査結果の集約と今後の対応(2)】

携帯・PHS端末の多機能化、高付加価値化、高デザイン化に伴って、思い出の詰まった携帯を手元に置いておく傾向が強まると共に、通信機能以外の用途で2次利用するケースが増えている。

また、ICカード(SIMカード)付きの3G端末が増加するのに伴い、複数の端末(筐体)を使用する傾向が強まる可能性もある。

携帯・PHS端末については、多機能化、高付加価値化、高デザイン化に伴って手元に置いておく傾向が年々強まっており、買換・解約を以って「使用済み」とは位置づけられず、回収台数を買換・解約数で除して算出する「回収率」という指標が実態にそぐわなくなっている。

2008/6/24

10

【調査結果の集約と今後の対応(3)】

「コレクション・思い出として」手元に置いておく具体的な理由として、写真、メール記録、着メロ、着うたなどの端末内部に保存・蓄積した情報を残しておきたいという要望が多い。

手元に置いておく理由として、端末内部に保存・蓄積した個人情報が増えることを心配する声も多い。

積極的な理由で手元に置いているのではなく、「何となく」という回答も多い。

*携帯端末の内部に保存した情報の移行やバックアップ措置を強化することにより、当該情報の保存、引継ぎを可能とし回収を高める。
携帯ショップで端末を引き取る際に、確実に個人情報を消去・処理していることをアピールし、安心して回収に協力してもらえるように努める必要がある。*

買換・解約で専売ショップ、量販店等を訪れた利用者に対して、不要となった端末は専売ショップ(ブランドを問わず)でリサイクル回収している旨の案内を強化する。

2008/6/24

11

東北経済産業局（平成20年3月）

平成19年度 環境問題対策調査等委託費（3Rシステム化可能性調査事業）

**「3R推進のための環境リスクコミュニケーション手法を活用した
次世代電子機器回収システムの構築に関する調査報告書」**

より II. 小型家電の動向－3. 意識調査 を抄録

3. 意識調査

1) 調査概要

調査の目的

家電リサイクル法などによるリサイクルシステムが整備されてきた中で、最近、レアメタルのリサイクルが注目されている。

そこで、本調査では、パソコン、携帯電話、ゲーム機、DVDプレーヤーなど希少金属が含まれている可能性の高い小型家電製品の廃棄等の現状を把握し、使用済み製品を効率的に回収するための方法を検討するための情報を収集することを目的としている。

調査の対象として、本調査において実施する「市民の会議」の対象地域である秋田県、特に小型家電の回収について特徴のある地域を選定した。

調査の内容

調査の目的に照らして、環境問題への関心と取り組み、小型家電製品の保有状況といらなくなった製品の廃棄等の実態、小型家電製品の回収に関する意見・アイデアなどを調査する。

調査の方法

インターネットによる消費者調査を実施する。詳細は以下のとおり。

(1) 調査地域

秋田市・大館市

秋田市：小型の家電製品は一般廃棄物「金属くず」として再資源化

大館市：小型家電製品の回収について社会実験を実施中。エコタウン地域。

(2) 抽出サンプル

Web調査モニター

(3) 調査対象属性

20歳～59歳の男女

(4) 調査項目数

環境問題への関心と取り組み、小型家電製品の保有状況といらなくなった製品の廃棄等の実態、小型家電製品の回収に関する意見・アイデアなど 25項目

(5) 調査期間

2008年1月25日～2008年1月28日

(6) アンケート回収状況

発信数	1,272
回収数	510 (うち、有効回答数 500)
回収率	39.3%

(7) 調査票

添付資料1に示す。

2) 調査結果

Q1. 環境問題等に対する関心と日ごろの取り組み

1) 関心のある問題(問1)

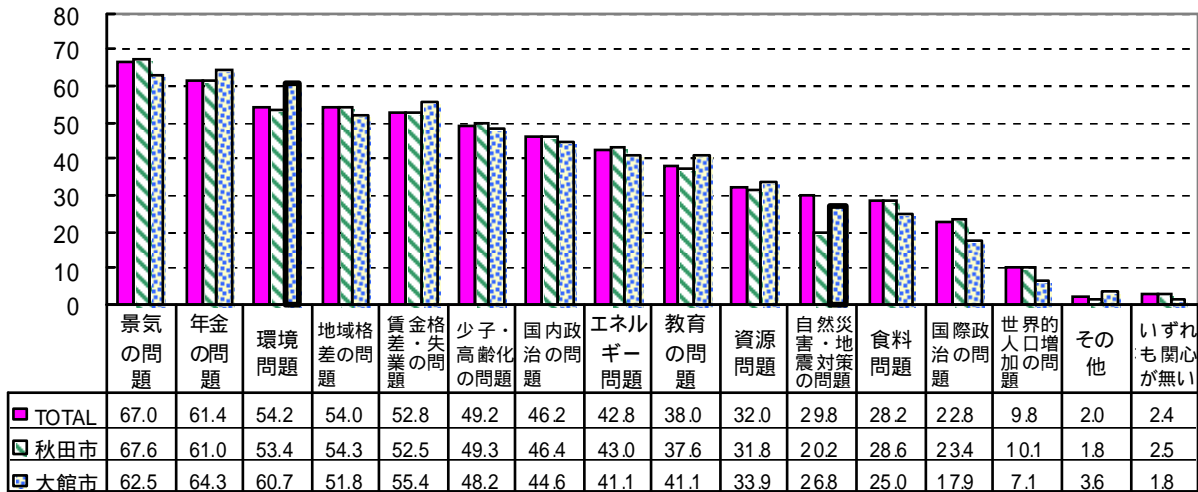
関心のある問題として、全体としては、環境問題は、景気の問題、年金の問題に次いで3番目にあげられ、54.2%の人が関心があると答えた。

その他、環境関連のテーマとしては、エネルギー問題に関心がある人が42.8%、資源問題に関心のある人が32.0%という回答であった。

男女別×年齢別にみると、50代男性、40代女性、50代女性は、景気の問題よりも年金の問題の方が関心が高く、トップにきている。

また、20代男性は、景気の問題のほか、地域格差の問題、賃金格差・失業の問題、国内政治の問題に対する関心が、環境問題より高く、20代女性は、地域格差の問題、賃金格差・失業の問題、少子・高齢化の問題に対する関心の方が、環境問題より高かった。

大館市においては環境問題への関心が若干高め傾向がある。



(秋田県と大館市を比較し、6ポイント以上の差がある項目を強調)

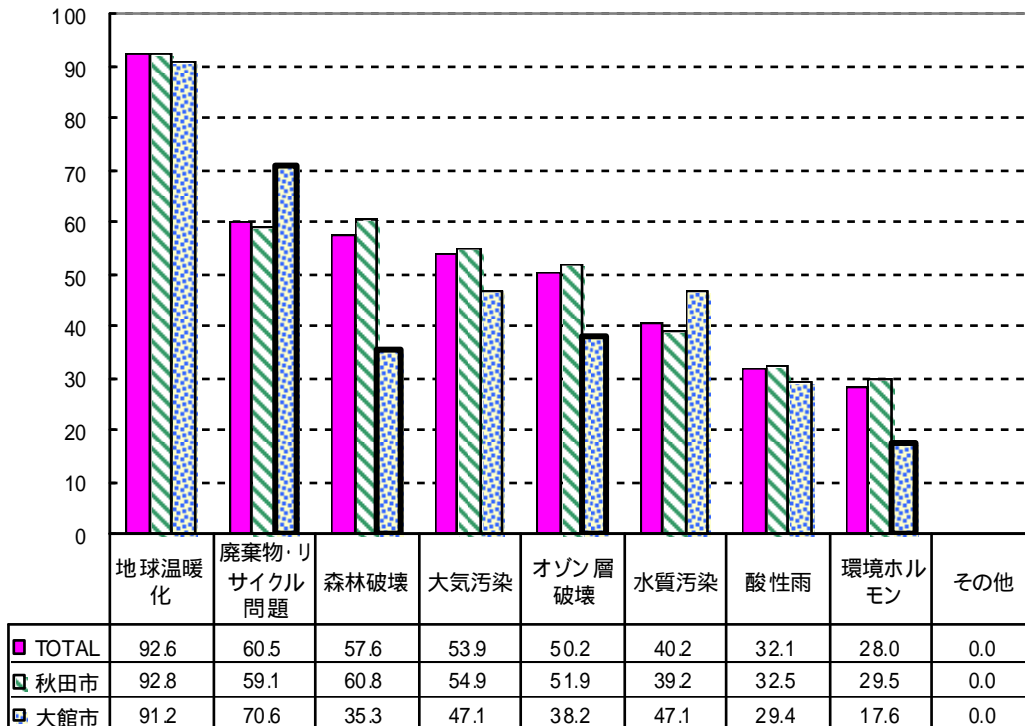
男性20代	57	61.4	36.8	40.4	56.1	50.9	35.1	57.9	49.1	26.3	29.8	14.0	14.0	22.8	7.0	1.8	3.5
男性30代	68	76.5	50.0	51.5	51.5	58.8	41.2	51.5	47.1	29.4	38.2	19.1	26.5	29.4	8.8	4.4	1.5
男性40代	83	73.5	62.7	56.6	67.5	49.4	50.6	57.8	51.8	43.4	34.9	33.7	30.1	36.1	19.3	1.2	2.4
男性50代	55	72.7	76.4	63.6	67.3	47.3	49.1	60.0	54.5	30.9	38.2	30.9	47.3	23.6	18.2	0.0	3.6
女性20代	61	49.2	52.5	47.5	50.8	60.7	52.5	27.9	23.0	36.1	24.6	34.4	16.4	11.5	4.9	6.6	1.6
女性30代	68	61.8	61.8	61.8	39.7	47.1	57.4	29.4	45.6	44.1	38.2	39.7	33.8	13.2	5.9	4.4	1.5
女性40代	71	66.2	76.1	49.3	42.3	53.5	54.9	36.6	32.4	53.5	19.7	36.6	23.9	16.9	4.2	0.0	1.4
女性50代	37	75.7	81.1	67.6	59.5	56.8	51.4	51.4	35.1	32.4	32.4	24.3	37.8	27.0	8.1	0.0	0.0

2) 関心のある環境問題(問2)

環境問題に関心があると答えた人に、環境問題の中で、どのような問題に関心があるかを聞いたところ、地球温暖化という答えが92.6%で最も多く、次いで、廃棄物・リサイクル問題、森林破壊、大気汚染、オゾン層破壊などの答えが多かった。

男女別×年齢別にみると、どの層も、地球温暖化という答えが一番高く、他を引き離しているが、20代、30代の男性では、大気汚染やオゾン層破壊が、また、40代、50代の女性では、森林破壊が、廃棄物・リサイクル問題よりも関心があるという答えが多かった。

大館市において廃棄物・リサイクル問題への関心が若干高めの傾向がある。



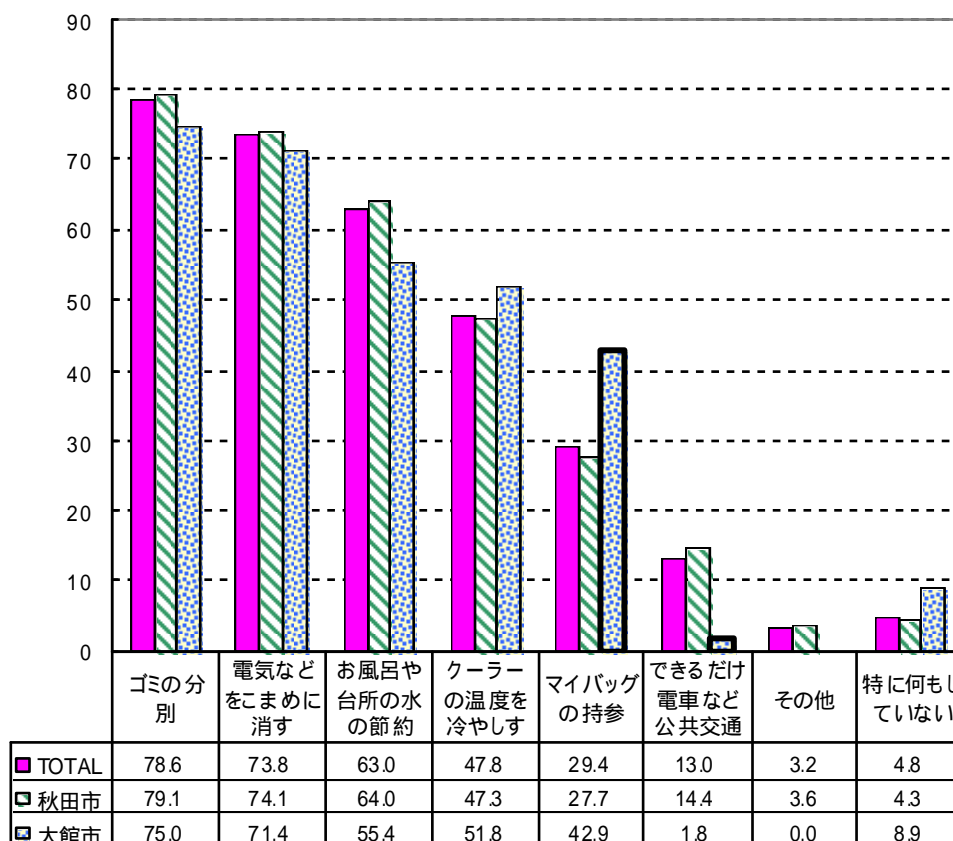
(秋田県と大館市を比較し、10ポイント以上の差がある項目を強調)

男性20代	23	87.0	47.8	43.5	52.2	56.5	21.7	26.1	13.0	0.0
男性30代	35	88.6	45.7	45.7	57.1	48.6	40.0	25.7	14.3	0.0
男性40代	47	95.7	68.1	63.8	55.3	57.4	44.7	31.9	34.0	0.0
男性50代	35	94.3	57.1	48.6	48.6	45.7	45.7	51.4	20.0	0.0
女性20代	29	89.7	62.1	51.7	58.6	37.9	37.9	31.0	17.2	0.0
女性30代	42	95.2	71.4	61.9	45.2	50.0	31.0	21.4	38.1	0.0
女性40代	35	91.4	57.1	65.7	60.0	48.6	48.6	37.1	42.9	0.0
女性50代	25	96.0	68.0	76.0	56.0	56.0	48.0	32.0	36.0	0.0

3) 地球に優しい活動として、日ごろ行っていること(問3)

日ごろ行っている地球に優しい活動としては、ごみの分別が最も多く、78.6%の人が行っていると答えた。以下、電気をこまめに消す(73.8%)、お風呂や台所の水の節約(63.0%)を行っているという答えが多かった。

男女別×年齢別にみると、20代、30代の男性では、生活感がないためか、ごみの分別や電気などをこまめに消すことなどを行っている人が、他の層と比較して少なかったが目立った。



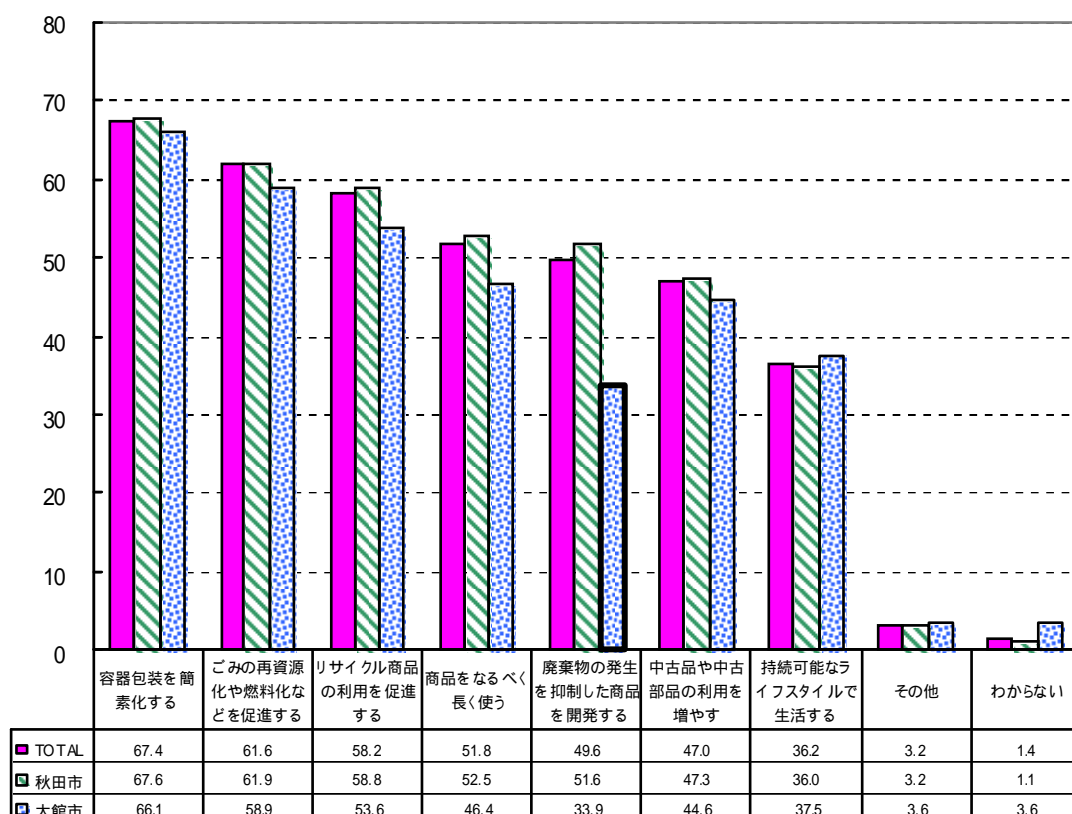
(秋田県と大館市を比較し、10ポイント以上の差がある項目を強調)

男性20代	57	68.4	59.6	42.1	31.6	10.5	15.8	0.0	7.0
男性30代	68	63.2	58.8	48.5	41.2	13.2	7.4	1.5	13.2
男性40代	83	80.7	74.7	59.0	49.4	9.6	9.6	4.8	8.4
男性50代	55	81.8	89.1	63.6	50.9	21.8	16.4	1.8	1.8
女性20代	61	73.8	72.1	63.9	44.3	39.3	11.5	3.3	1.6
女性30代	68	86.8	80.9	79.4	51.5	50.0	14.7	5.9	1.5
女性40代	71	83.1	76.1	76.1	53.5	50.7	12.7	2.8	1.4
女性50代	37	97.3	83.8	73.0	64.9	48.6	21.6	5.4	0.0

4) ごみ問題を解決するために大切なこと(問4)

ごみ問題を解決するために大切なこととしては、容器包装を簡素化する(67.4%)、ごみの再資源化や燃料化などを促進する(61.6%)、リサイクル商品の利用を促進する(58.2%)、商品をなるべく長く使う(51.8%)、廃棄物の発生を抑制した商品を開発する(49.6%)、中古品や中古部品の利用を増やす(47.0%)、持続可能なライフスタイルで生活する(36.2%)の順に多かった。

男女別×年齢別にみると、20代、30代の男性で、容器包装を簡素化すると答えた人が他の層と比較して少なかった。



(秋田県と大館市を比較し、10ポイント以上の差がある項目を強調)

男性20代	57	47.4	54.4	33.3	38.6	42.1	29.8	26.3	7.0	0.0
男性30代	68	52.9	54.4	57.4	44.1	47.1	48.5	32.4	0.0	7.4
男性40代	83	63.9	62.7	57.8	47.0	60.2	50.6	39.8	7.2	0.0
男性50代	55	63.6	76.4	61.8	52.7	50.9	54.5	41.8	0.0	1.8
女性20代	61	68.9	44.3	45.9	57.4	39.3	45.9	37.7	0.0	1.6
女性30代	68	92.6	66.2	67.6	55.9	45.6	45.6	27.9	5.9	0.0
女性40代	71	73.2	70.4	69.0	59.2	47.9	45.1	40.8	1.4	0.0
女性50代	37	78.4	64.9	75.7	64.9	67.6	59.5	45.9	2.7	0.0

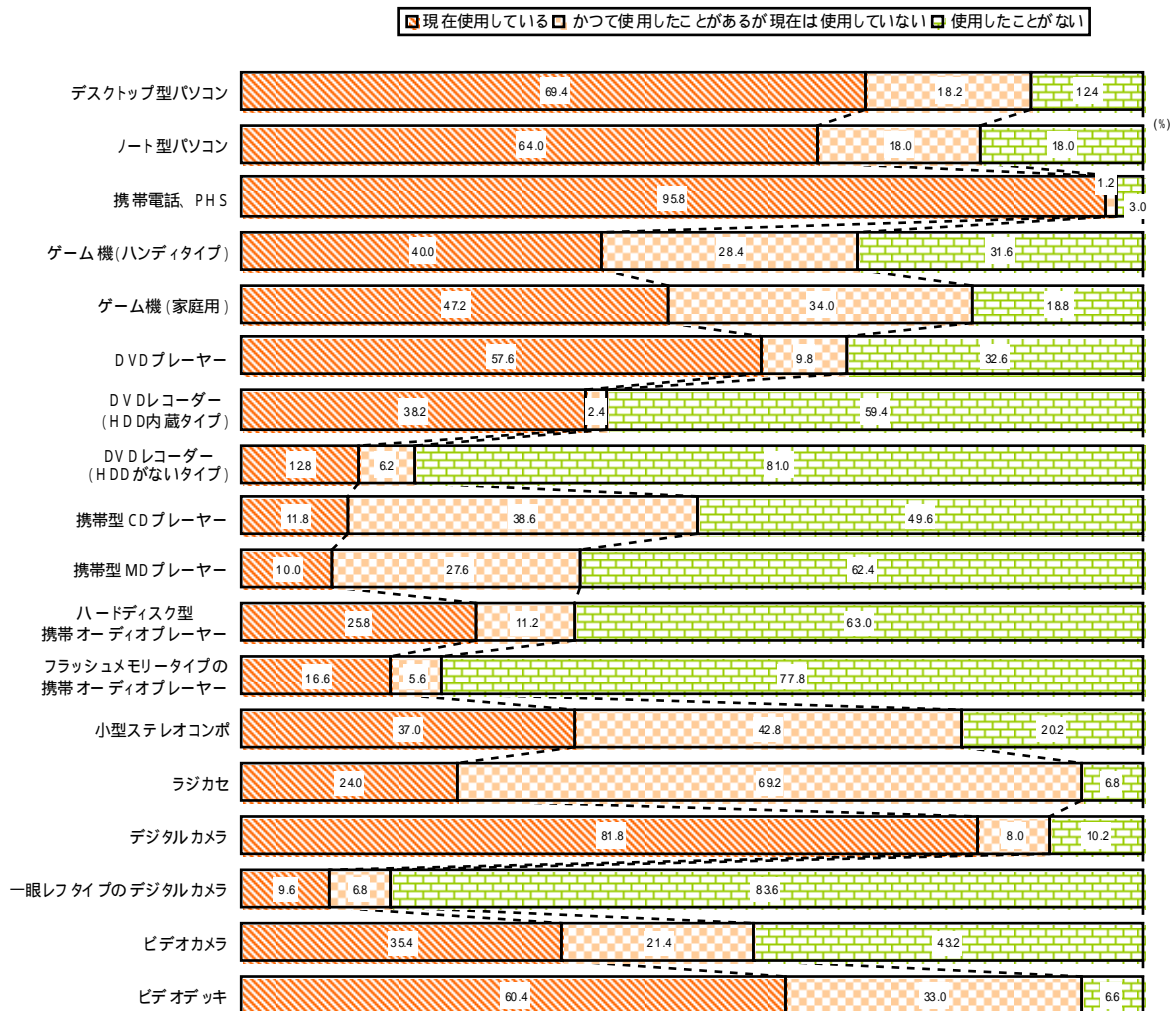
Q 2 . 小型家電製品の使用実態

1) 品目ごとの現在及び過去の使用経験 (問 5)

過去に使用した経験も含めた使用経験率が高い商品としては、携帯電話・PHS(97.0%)、ビデオデッキ(93.4%)、ラジカセ(93.2%)、デジタルカメラ(89.8%)、デスクトップ型パソコン(87.6%)、ノート型パソコン(82.0%)、家庭用ゲーム機(81.2%)、小型ステレオコンポ(79.8%)などが上げられた。

しかし、ラジカセ、小型ステレオコンポなどは、過去に使用したことがあるが現在は使用していないと答えた人が多く、今後の使用率は低減していくことが予想される。

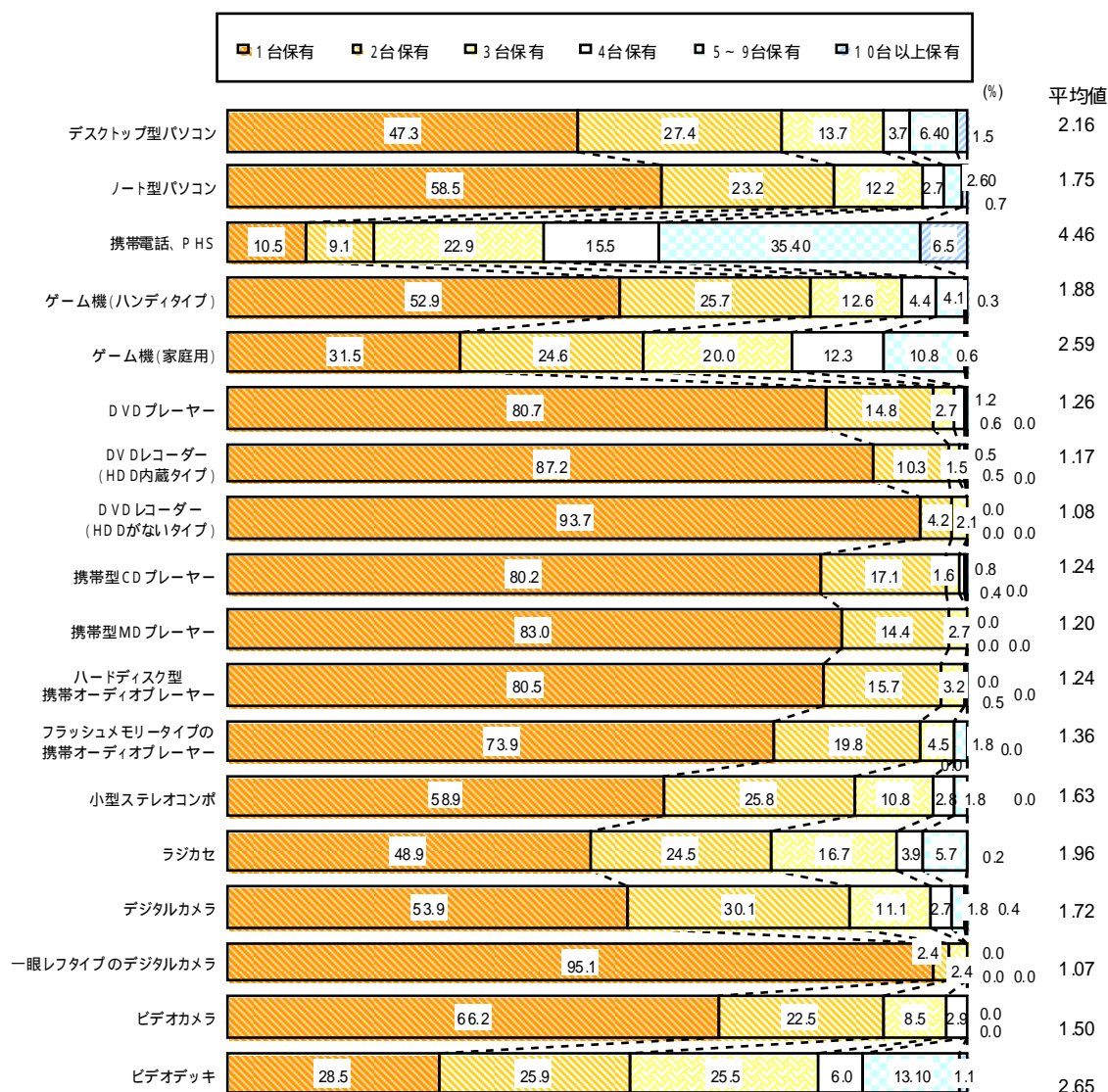
現在使用している商品の使用率としては、携帯電話・PHS(95.8%)、デジタルカメラ(81.8%)、デスクトップ型パソコン(69.4%)、ノート型パソコン(64.0%)、ビデオデッキ(60.4%)の順に高かった。

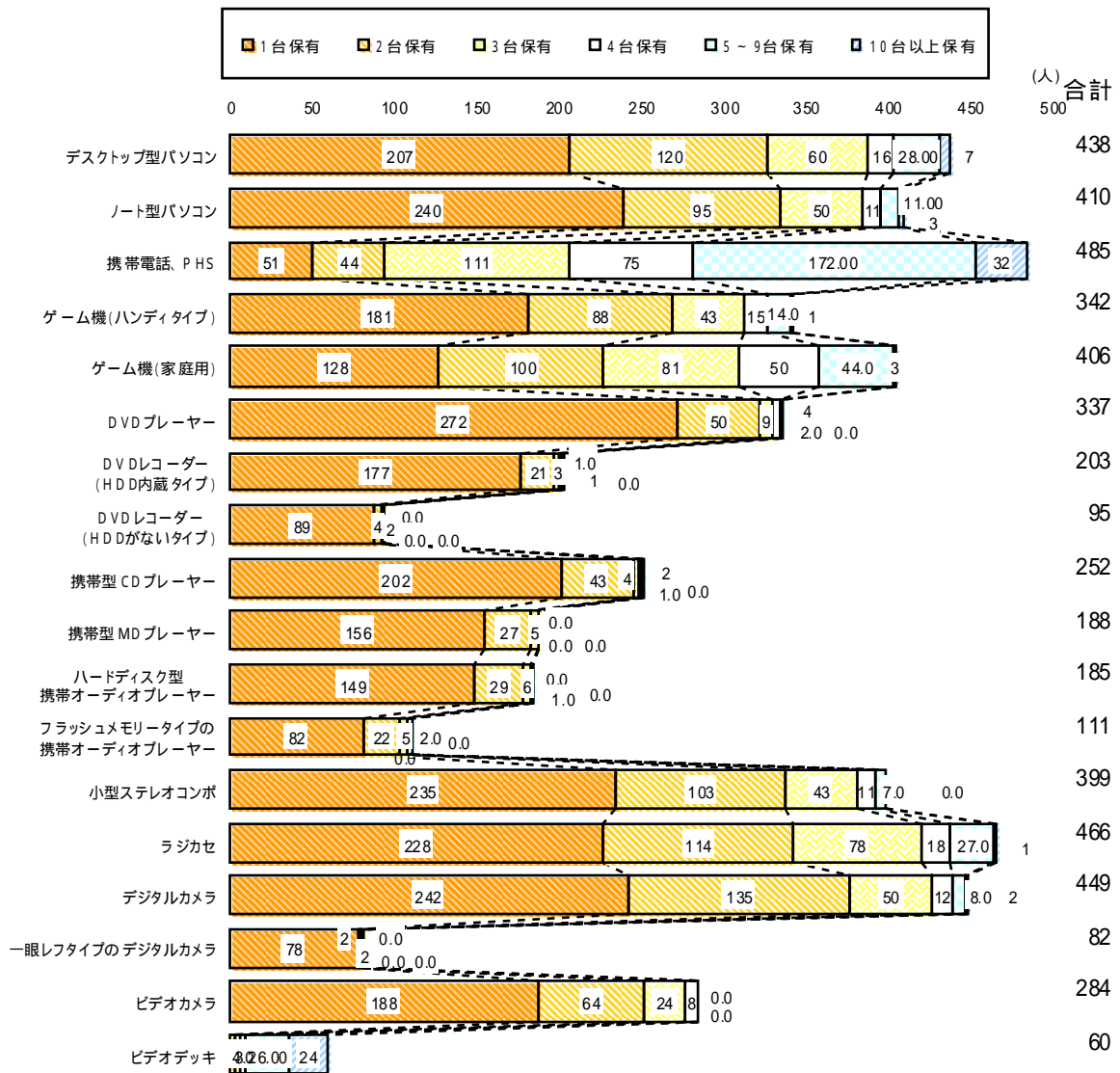


2) これまでに使用した台数(問6)

DVDレコーダーや一眼レフタイプのデジタルカメラなど、発売されてから、あまり年数がたっていないものについては、1台目が多く、商品が発売されてからの年数が比較的古い、パソコン、小型ステレオコンポ、ラジカセ、ビデオデッキなどは、2台目、3台目として保有しているという回答も多かった。

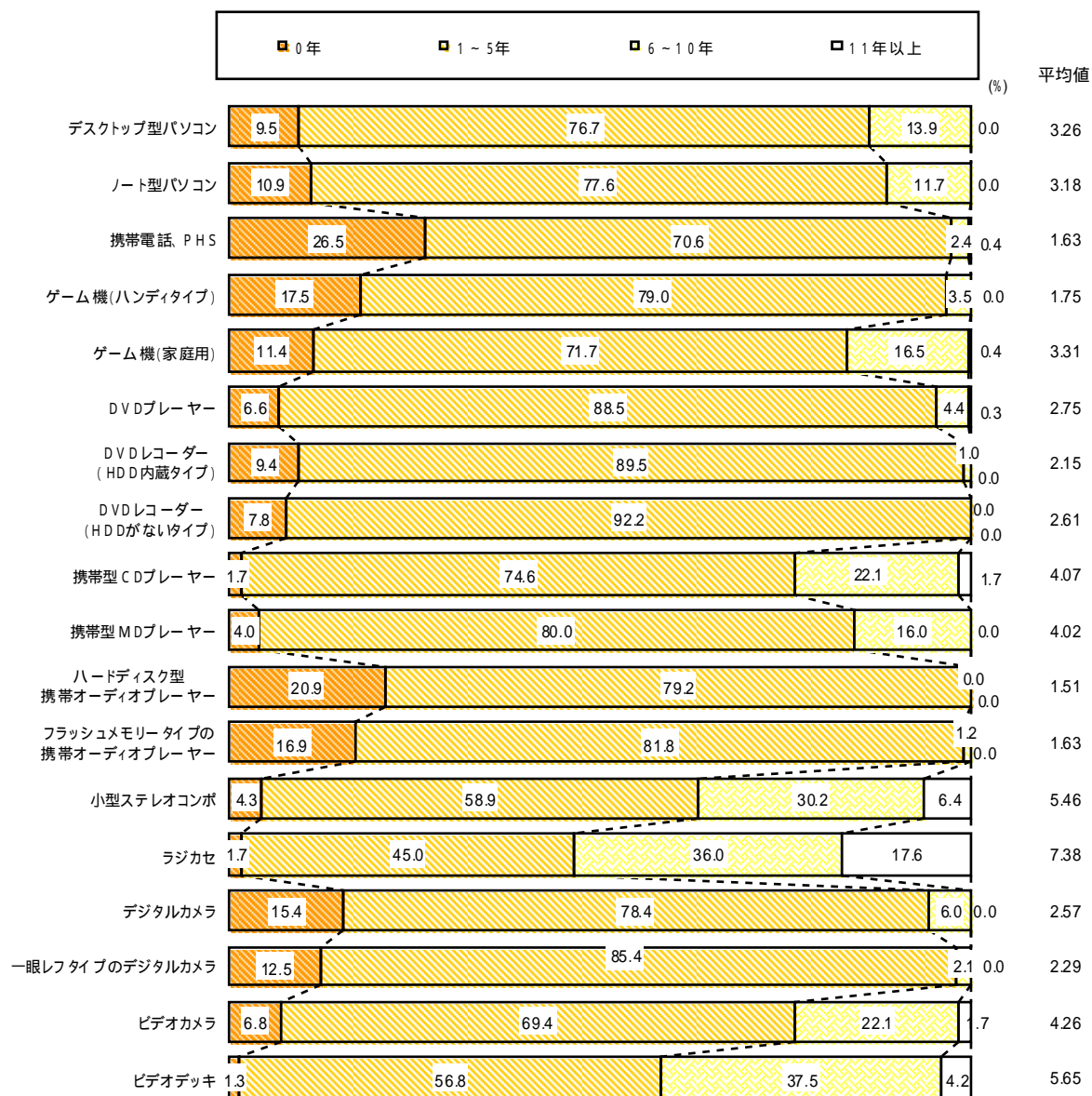
また、携帯電話・PHSやゲーム機など、機能や性能の向上が激しいものは、4台目、5台目といった回答もあった。

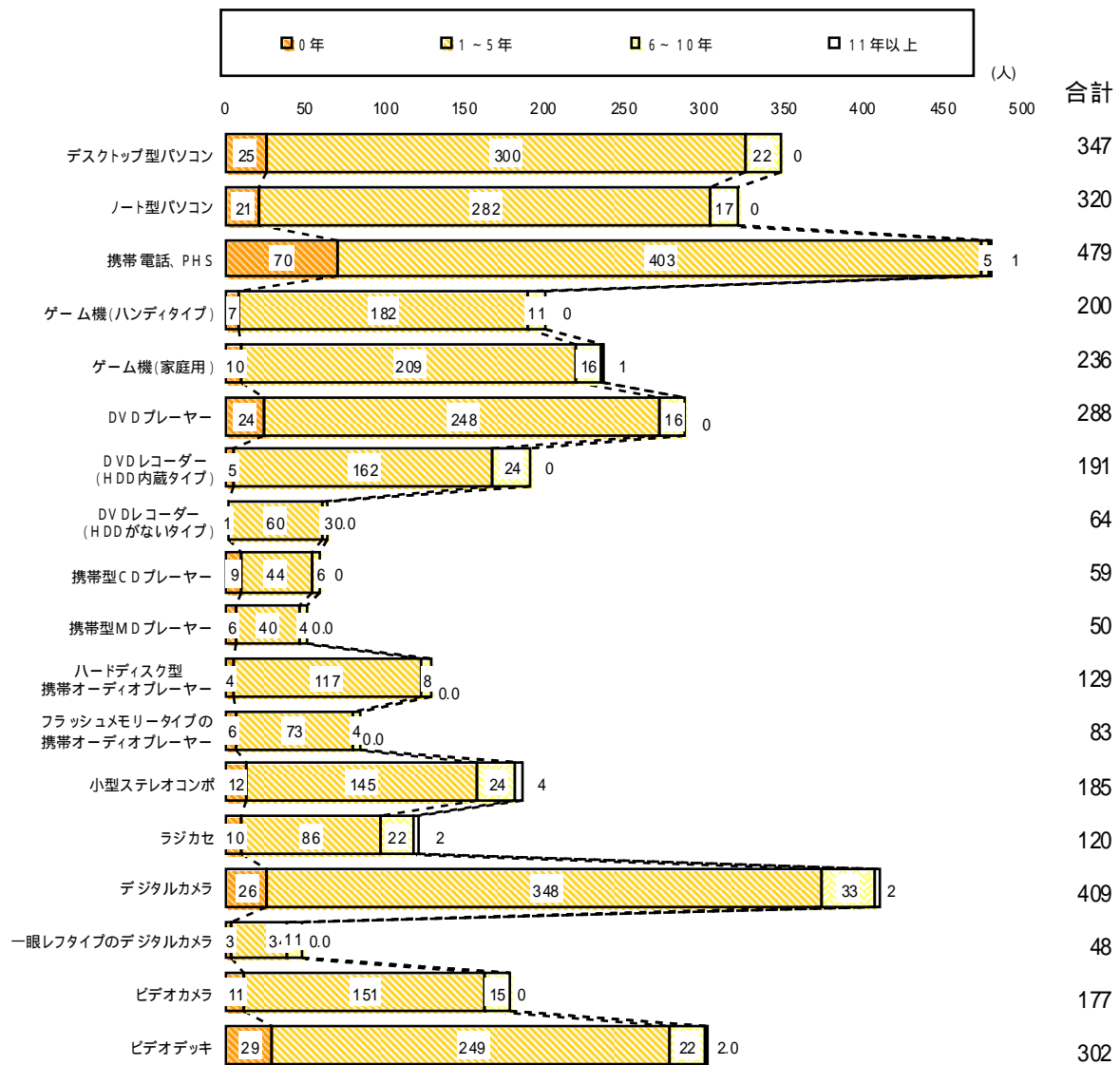




3) 現在使用している製品の使用年数 (問7)

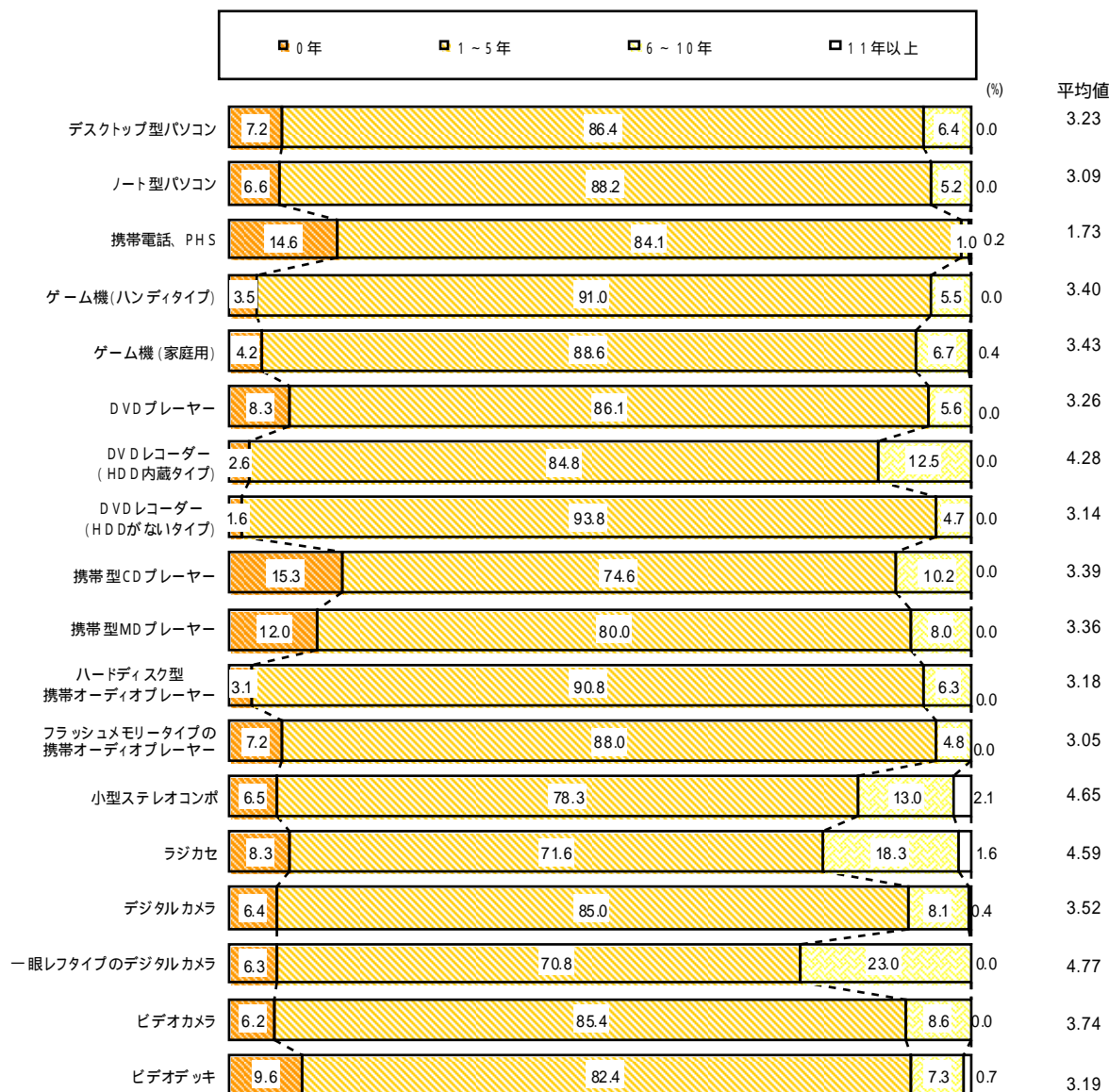
どの製品も、大半は、現在使用している製品の使用年数は、1年から5年という回答であったが、携帯電話・PHSは26.5%の人が、また、ハードディスク型携帯オーディオプレーヤーは20.9%の人が、現在使用している製品の使用年数は、1年未満と答えた。

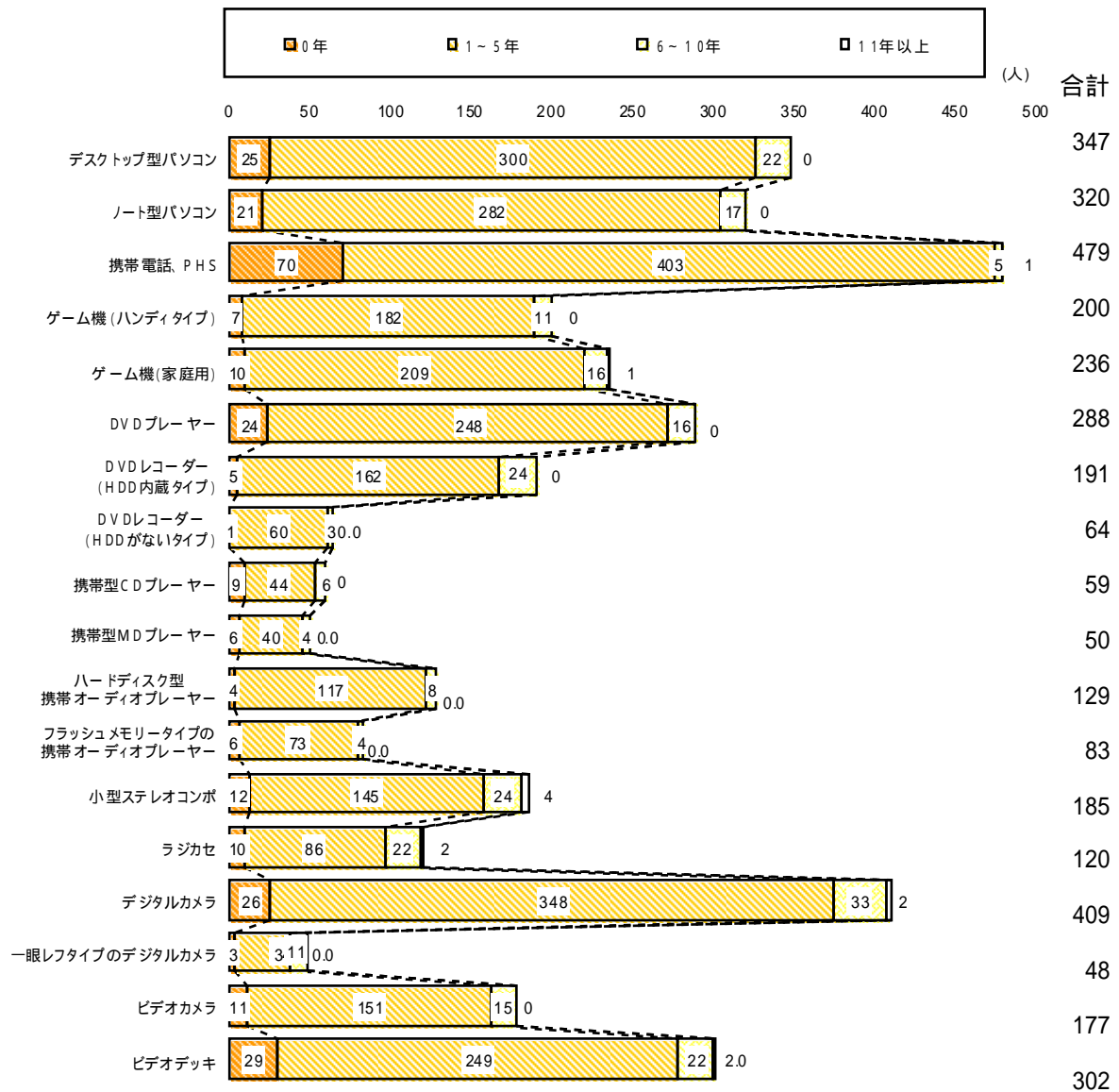




4) 現在使用している製品の今後の使用年数(問8)

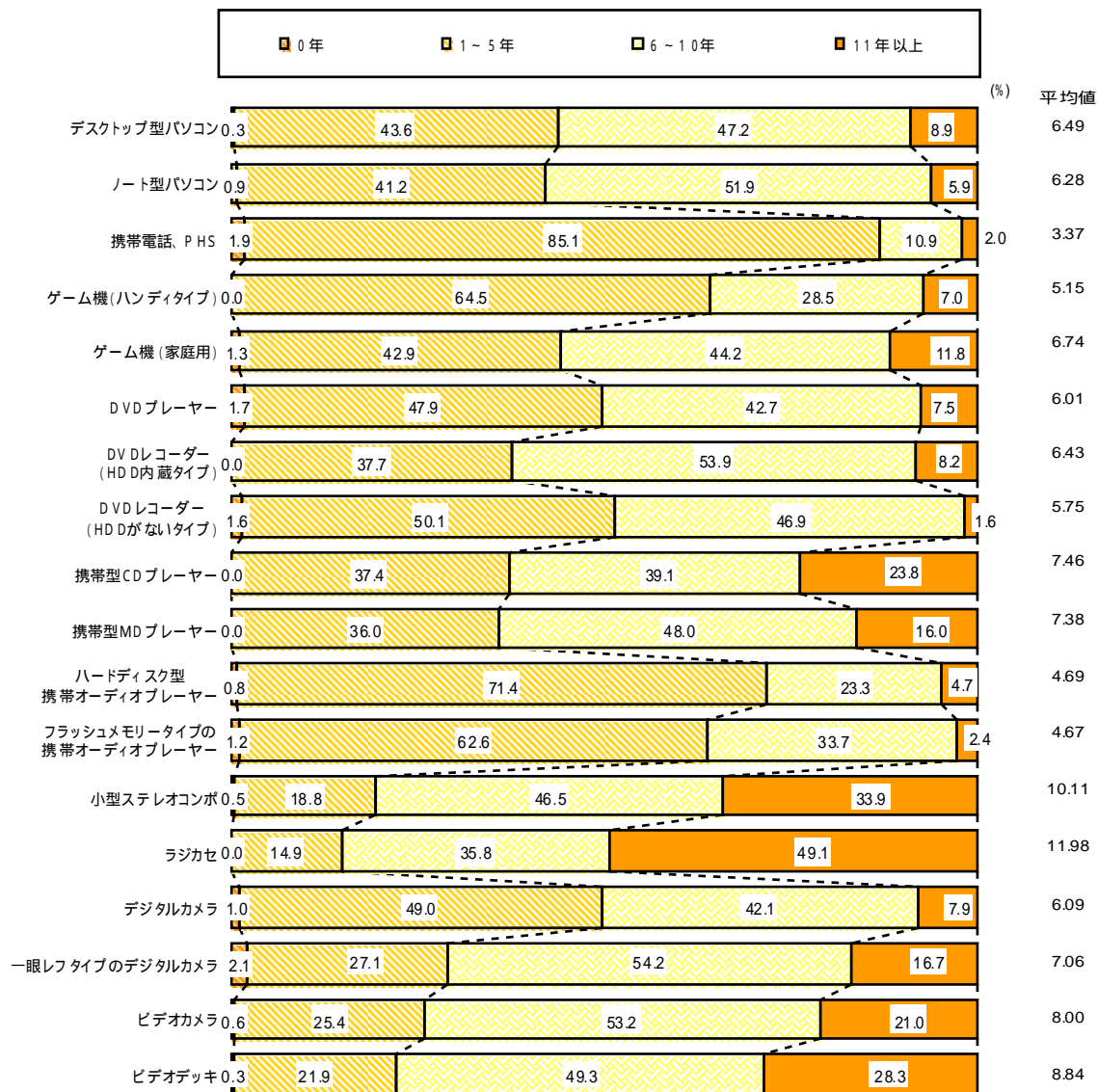
どの商品も、大半は、今後、1年から5年使用したいという回答であったが、携帯電話・PHSを使用している人の14.6%が、また、携帯型CDプレーヤーを使用している人の15.3%が、今後の使用意向は、1年未満と答えた。





5) 品目ごとの使用年数 (問7 + 問8)

現在使用している製品のこれまでに使用した年数と今後使用したい年数を足して、各品目ごとの使用年数として算出したところ、ラジカセ(平均 11.98年)、小型ステレオコンポ(平均 10.11年)が最も長く、携帯電話・PHS(平均約 3.37年)が最も短かった。平均すると、概ね4年~8年という答えが多かった。



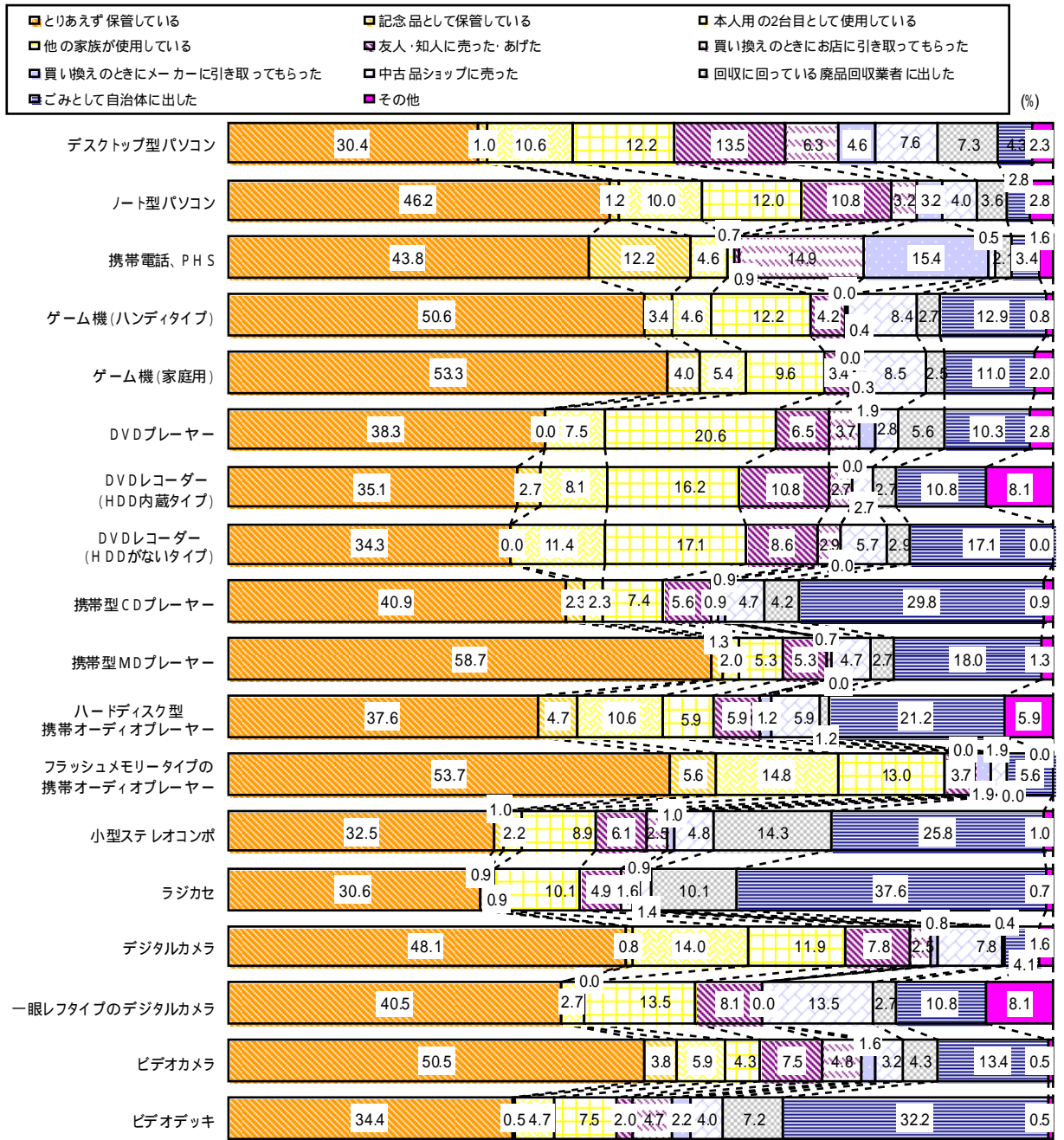
Q3 . 使用済み小型家電製品の取り扱い

1) 使っていた製品の取り扱い方法(問9)

これまでに使っていた製品については、どの製品についても、とりあえず保管しているという答えが多かった。これは、小型家電製品は、それほどスペースを取らないため、保管場所の確保がそれほど難しくないことや、愛着があって捨てるのがもったいないと感じていることなどによると想像される。

その他の答えとしては、全体的に、ごみとして自治体に出したという答えが多かった。

	とりあえず保管している	記念品として保管している	本人用の2台目として使用している	他の家族が使用している	友人・知人に売った・あげた	買い換えのときにお店に引き取ってもらった	買い換えのときにメーカーに引き取ってもらった	中古品ショップに売った	回収に回っている廃品回収業者に出した	ごみとして自治体に出した	その他
デスクトップ型パソコン	30.4	1.0	10.6	12.2	13.5	6.3	4.6	7.6	7.3	4.3	2.3
ノート型パソコン	46.2	1.2	10.0	12.0	10.8	3.2	3.2	4.0	3.6	2.8	2.8
携帯電話、PHS	43.8	12.2	4.6	0.9	0.7	14.9	15.4	0.5	2.1	3.4	1.6
ゲーム機(ハンディタイプ)	50.6	3.4	4.6	12.2	4.2	0.0	0.4	8.4	2.7	12.9	0.8
ゲーム機(家庭用)	53.3	4.0	5.4	9.6	3.4	0.0	0.3	8.5	2.5	11.0	2.0
DVDプレーヤー	38.3	0.0	7.5	20.6	6.5	3.7	1.9	2.8	5.6	10.3	2.8
DVDレコーダー(HDD内蔵タイプ)	35.1	2.7	8.1	16.2	10.8	2.7	0.0	2.7	2.7	10.8	8.1
DVDレコーダー(HDDがないタイプ)	34.3	0.0	11.4	17.1	8.6	2.9	0.0	5.7	2.9	17.1	0.0
携帯型CDプレーヤー	40.9	2.3	2.3	7.4	5.6	0.9	0.9	4.7	4.2	29.8	0.9
携帯型MDプレーヤー	58.7	1.3	2.0	5.3	5.3	0.7	0.0	4.7	2.7	18.0	1.3
ハードディスク型携帯オーディオプレーヤー	37.6	4.7	10.6	5.9	5.9	0.0	1.2	5.9	1.2	21.2	5.9
フラッシュメモリータイプの携帯オーディオプレーヤー	53.7	5.6	14.8	13.0	3.7	0.0	1.9	1.9	0.0	5.6	0.0
小型ステレオコンポ	32.5	1.0	2.2	8.9	6.1	2.5	1.0	4.8	14.3	25.8	1.0
ラジカセ	30.6	0.9	0.9	10.1	4.9	1.6	0.9	1.4	10.1	37.6	0.7
デジタルカメラ	48.1	0.8	14.0	11.9	7.8	2.5	0.8	7.8	0.4	4.1	1.6
一眼レフタイプのデジタルカメラ	40.5	0.0	2.7	13.5	8.1	0.0	0.0	13.5	2.7	10.8	8.1
ビデオカメラ	50.5	3.8	5.9	4.3	7.5	4.8	1.6	3.2	4.3	13.4	0.5
ビデオデッキ	34.4	0.5	4.7	7.5	2.0	4.7	2.2	4.0	7.2	32.2	0.5

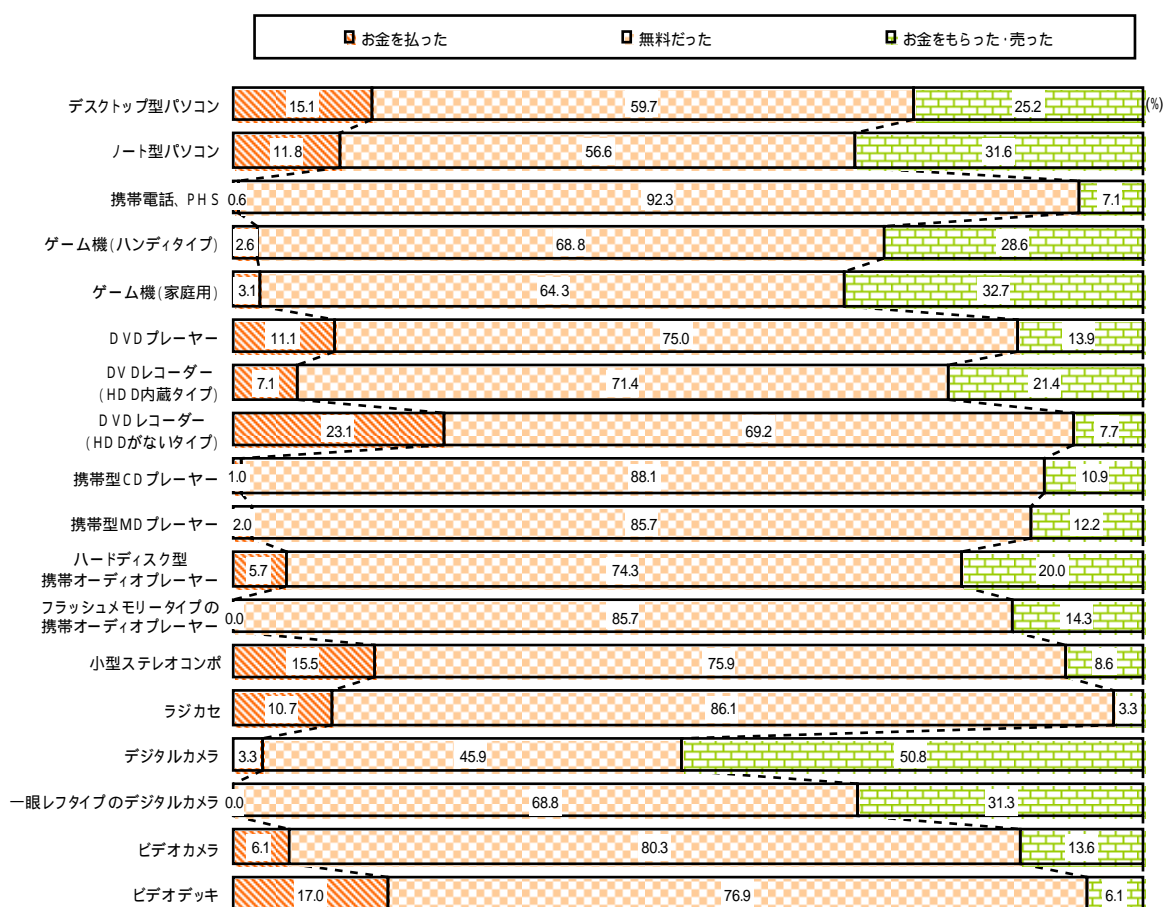


2) 製品を手元から手放した際の、お金の受け渡しの状況 (問 10)

製品を手元から手放した際のお金の受け渡しについては、デジタルカメラ、ゲーム機、パソコンなど、お金を払ったという答えよりも、お金をもらった・売ったという答えの方が、圧倒的に多かった。

一方、小型ステレオコンボ、ラジカセ、ビデオデッキなどは、お金をもらった・売ったという答えよりもお金を払ったという答えの方が多かった。

デジタルカメラの売却傾向が顕著である。



3) 製品を手元から手放した際の、支払い金額と受け取り金額(問11)

製品を手元から手放した際の、支払い金額としては、デスクトップ型パソコンが、平均3,462円、ハードディスク型携帯オーディオプレーヤーが平均3,025円、ノート型パソコンが平均2,667円、デジタルカメラが平均1,050円となっているが、これ以外の商品の支払い金額は、概ね、100円～700円程度であった。

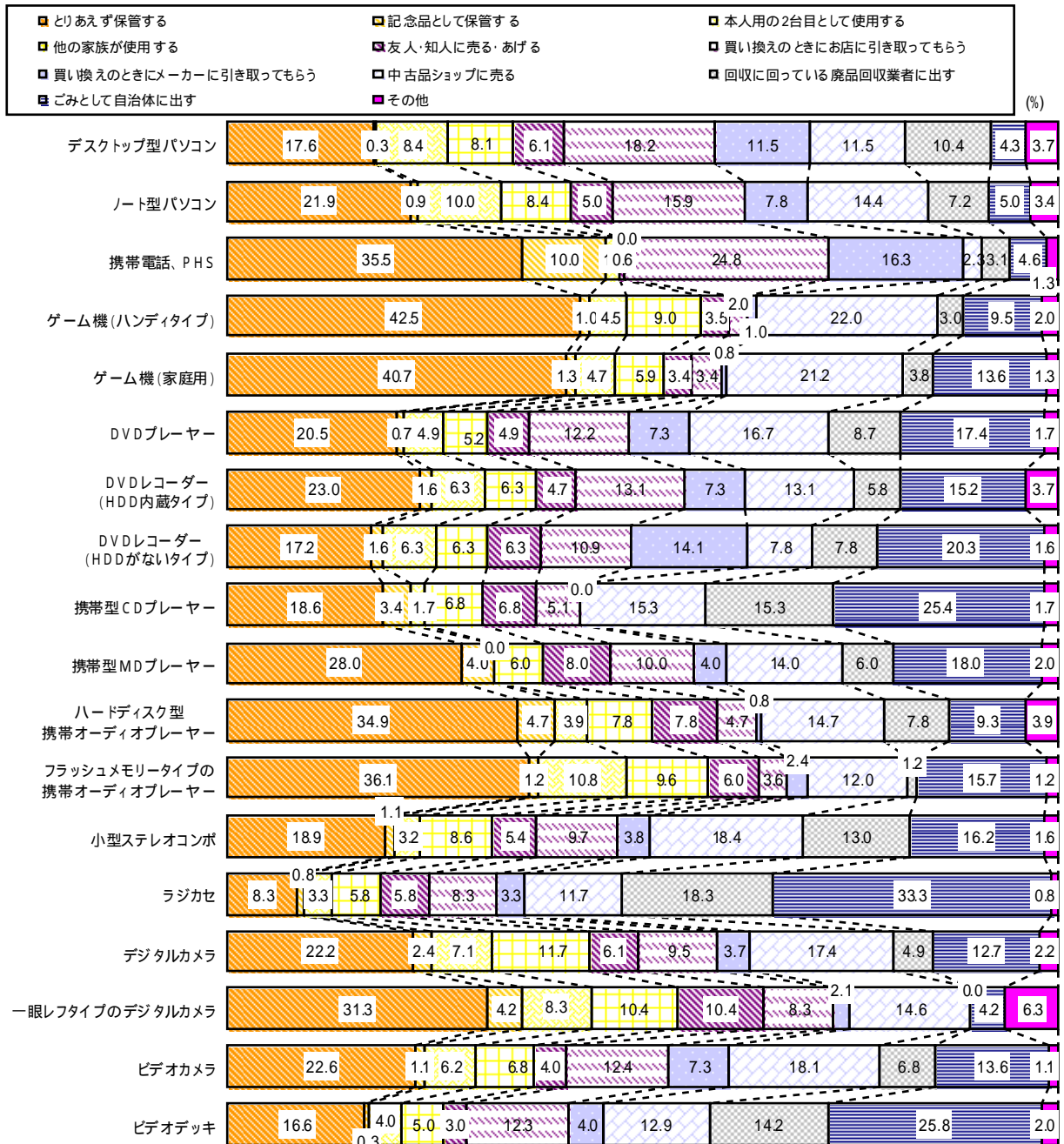
受け取った金額としては、ノート型パソコンが平均29,979円、一眼レフタイプのデジタルカメラが平均26,000円、デスクトップ型パソコンが平均17,923円、ビデオカメラが平均13,002円、HDD内蔵タイプのDVDレコーダーが平均10,000円となっているほかは、1,000円～7,000円程度の商品が多かった。

	支払った人		受け取った人	
	人数	支払い平均金額	人数	受け取り平均金額
デスクトップ型パソコン	21	3,462	35	17,923
ノート型パソコン	9	2,667	24	29,979
携帯電話、PHS	1	4,000	12	1,458
ゲーム機(ハンディタイプ)	2	125	22	4,136
ゲーム機(家庭用)	3	183	32	3,275
DVDプレーヤー	4	375	5	7,000
DVDレコーダー (HDD内蔵タイプ)	1	500	3	10,000
DVDレコーダー (HDDがないタイプ)	3	533	1	1,000
携帯型CDプレーヤー	1	200	11	1,273
携帯型MDプレーヤー	1	50	6	5,667
ハードディスク型 携帯オーディオプレーヤー	2	3,025	7	9,157
フラッシュメモリータイプの 携帯オーディオプレーヤー	0	-	1	3,000
小型ステレオコンポ	27	630	15	6,380
ラジカセ	26	546	8	1,194
デジタルカメラ	2	1,050	31	6,845
一眼レフタイプのデジタルカメラ	0	-	5	26,000
ビデオカメラ	4	400	9	13,022
ビデオデッキ	36	682	13	1,200

4) 今後使わなくなった場合の方法(問12)

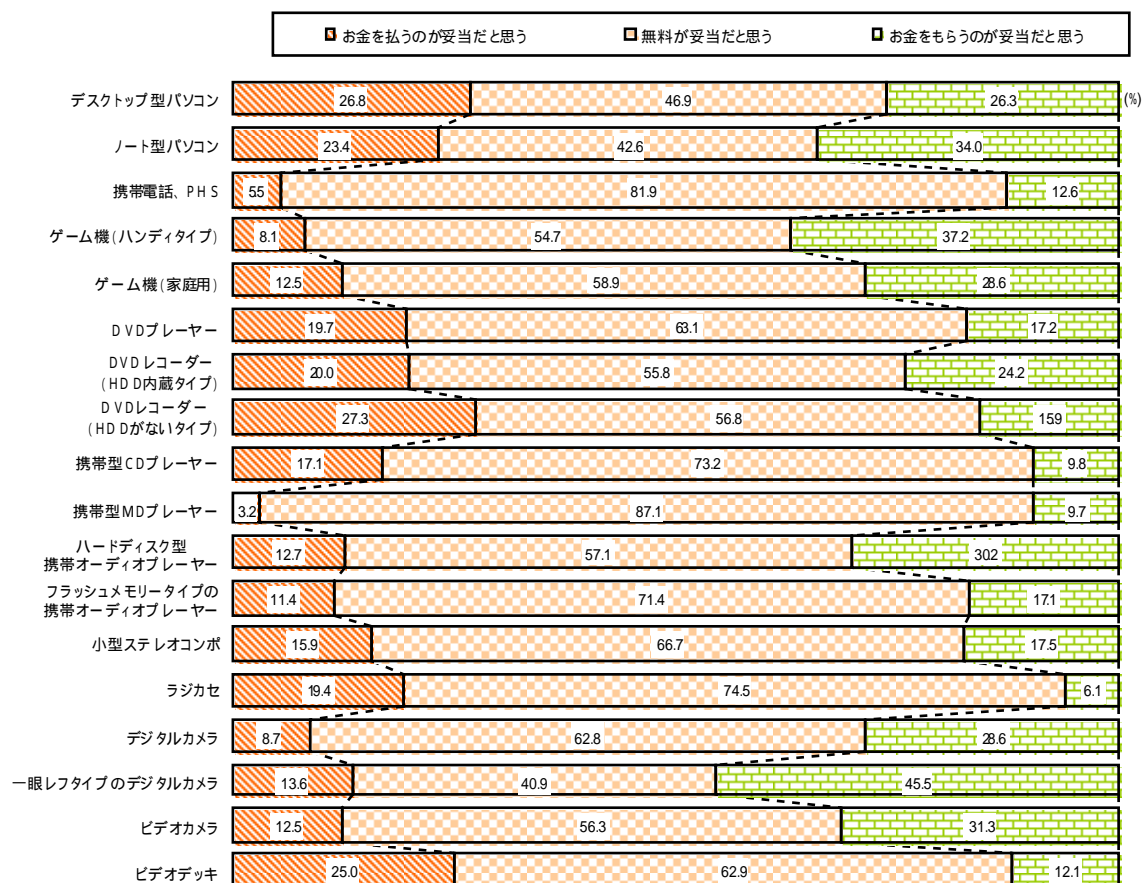
今後使わなくなった場合の方法としては、とりあえず保管するという答えが、実際に使わなくなった場合(問9)と同じく多かった。その他の答えとしては、ごみとして自治体に出すという答えや、買い替えのときにお店に引き取ってもらう、中古品ショップに売る、回収に回っている回収業者に出すといった答えが多かった。

	とりあえず保管する	記念品として保管する	本人用の2台目として使用する	他の家族が使用する	友人・知人に売る・あげる	買い換えのときにお店に引き取ってもらう	買い換えのときにメーカーに引き取ってもらう	中古品ショップに売る	回収に回っている廃品回収業者に出す	ごみとして自治体に出す	その他
デスクトップ型パソコン	17.6	0.3	8.4	8.1	6.1	18.2	11.5	11.5	10.4	4.3	3.7
ノート型パソコン	21.9	0.9	10.0	8.4	5.0	15.9	7.8	14.4	7.2	5.0	3.4
携帯電話、PHS	35.5	10.0	1.5	0.0	0.6	24.8	16.3	2.3	3.1	4.6	1.3
ゲーム機(ハンディタイプ)	42.5	1.0	4.5	9.0	3.5	2.0	1.0	22.0	3.0	9.5	2.0
ゲーム機(家庭用)	40.7	1.3	4.7	5.9	3.4	3.4	0.8	21.2	3.8	13.6	1.3
DVDプレーヤー	20.5	0.7	4.9	5.2	4.9	12.2	7.3	16.7	8.7	17.4	1.7
DVDレコーダー(HDD内蔵タイプ)	23.0	1.6	6.3	6.3	4.7	13.1	7.3	13.1	5.8	15.2	3.7
DVDレコーダー(HDDがないタイプ)	17.2	1.6	6.3	6.3	6.3	10.9	14.1	7.8	7.8	20.3	1.6
携帯型CDプレーヤー	18.6	3.4	1.7	6.8	6.8	5.1	0.0	15.3	15.3	25.4	1.7
携帯型MDプレーヤー	28.0	4.0	0.0	6.0	8.0	10.0	4.0	14.0	6.0	18.0	2.0
ハードディスク型携帯オーディオプレーヤー	34.9	4.7	3.9	7.8	7.8	4.7	0.8	14.7	7.8	9.3	3.9
フラッシュメモリータイプの携帯オーディオプレーヤー	36.1	1.2	10.8	9.6	6.0	3.6	2.4	12.0	1.2	15.7	1.2
小型ステレオコンポ	18.9	1.1	3.2	8.6	5.4	9.7	3.8	18.4	13.0	16.2	1.6
ラジカセ	8.3	0.8	3.3	5.8	5.8	8.3	3.3	11.7	18.3	33.3	0.8
デジタルカメラ	22.2	2.4	7.1	11.7	6.1	9.5	3.7	17.4	4.9	12.7	2.2
一眼レフタイプのデジタルカ	31.3	4.2	8.3	10.4	10.4	8.3	2.1	14.6	0.0	4.2	6.3
ビデオカメラ	22.6	1.1	6.2	6.8	4.0	12.4	7.3	18.1	6.8	13.6	1.1
ビデオデッキ	16.6	0.3	4.0	5.0	3.0	12.3	4.0	12.9	14.2	25.8	2.0



5) 製品を手元から手放す際の、支払い金額と受け取り金額 (問 13)

全体的に、お金を支払うよりもお金を受け取る方が妥当だという回答が多かった。しかし、HDDがないタイプのDVDレコーダー、ラジカセ、ビデオデッキなどは、お金を支払う方が妥当だという回答が多かった。



6) お金を払う場合、もらう場合の妥当な金額(問14)

お金を払う場合は、いずれの商品も平均で 3,000 円以下が妥当だという回答であった。お金を受け取る方では、全体的には、1,000 円から 6,000 円という回答が多かったが、携帯電話・PHS、パソコン、一眼レフタイプのデジカメについては、平均で 2 万円から 3 万円が妥当だという回答であった。

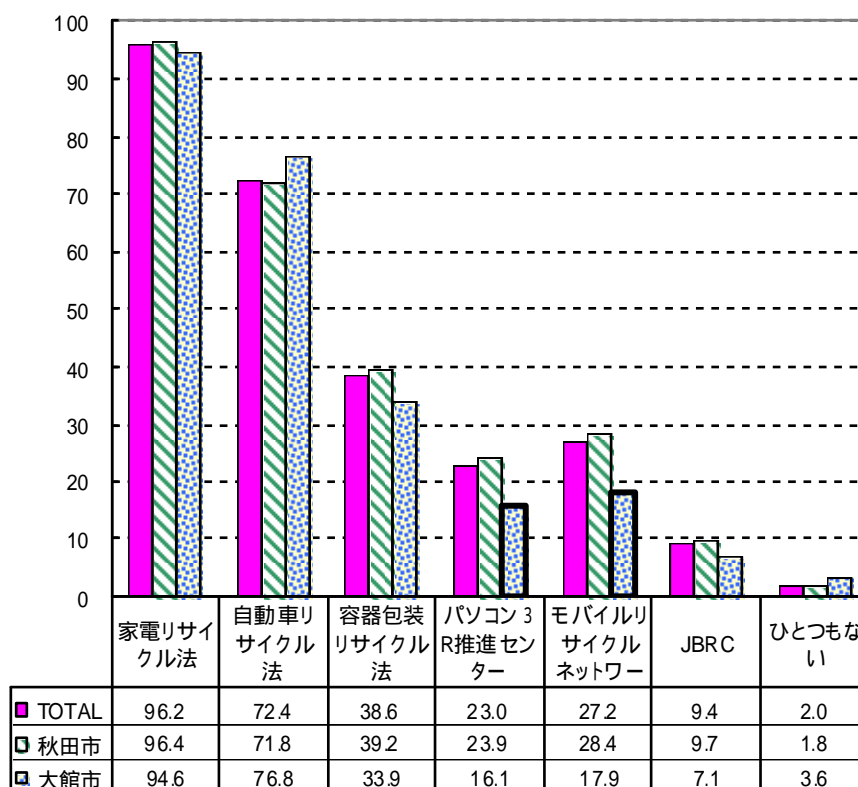
	支払い妥当金額 (平均)	受け取り妥当金額 (平均)
デスクトップ型パソコン	2,336	20,267
ノート型パソコン	2,634	22,172
携帯電話、PHS	800	33,231
ゲーム機(ハンディタイプ)	343	4,384
ゲーム機(家庭用)	1,289	5,969
DVDプレーヤー	637	2,785
DVDレコーダー (HDD内蔵タイプ)	833	9,162
DVDレコーダー (HDDがないタイプ)	1,075	1,600
携帯型CDプレーヤー	450	1,875
携帯型MDプレーヤー	500	2,667
ハードディスク型 携帯オーディオプレーヤー	656	4,516
フラッシュメモリータイプの 携帯オーディオプレーヤー	280	1,385
小型ステレオコンポ	855	3,668
ラジカセ	704	883
デジタルカメラ	1,095	5,609
一眼レフタイプのデジタルカメラ	2,100	24,600
ビデオカメラ	579	4,386
ビデオデッキ	879	2,341

Q4. 様々な使用済み製品の回収システムに関する現状

1) 法律や使用済み製品の回収システムの認知度(問15)

家電リサイクル法については、圧倒的に認知度が高く、96.2%の人が知っていると答えた。また、自動車リサイクル法も、知っている人が72.4%で高かったが、容器包装リサイクル法(38.6%)、パソコン3R推進センター(家庭用パソコンのメーカーによる自主回収)、モバイルリサイクルネットワーク(携帯電話・PHSのメーカーによる自主回収)、JBRC(二次電池のメーカーによる自主回収)については、知っていると答えた人は、30%以下で、まだまだ一般的でないことがわかった。

男女別×年代別でも、家電リサイクル法については、いずれの層も90%以上の人が知っていると答えた。容器包装リサイクル法については、男女とも50代では、50%以上に人が知っていると答えた。



(秋田県と大館市を比較し、7ポイント以上の差がある項目を強調)

男性20代	57	98.2	75.4	26.3	17.5	21.1	7.0	0.0
男性30代	68	91.2	76.5	29.4	26.5	19.1	8.8	5.9
男性40代	83	96.4	83.1	48.2	31.3	32.5	19.3	0.0
男性50代	55	98.2	85.5	56.4	21.8	21.8	14.5	0.0
女性20代	61	95.1	62.3	29.5	14.8	23.0	4.9	3.3
女性30代	68	100.0	73.5	29.4	20.6	36.8	5.9	0.0
女性40代	71	95.8	63.4	42.3	26.8	31.0	5.6	2.8
女性50代	37	94.6	48.6	51.4	18.9	29.7	5.4	5.4

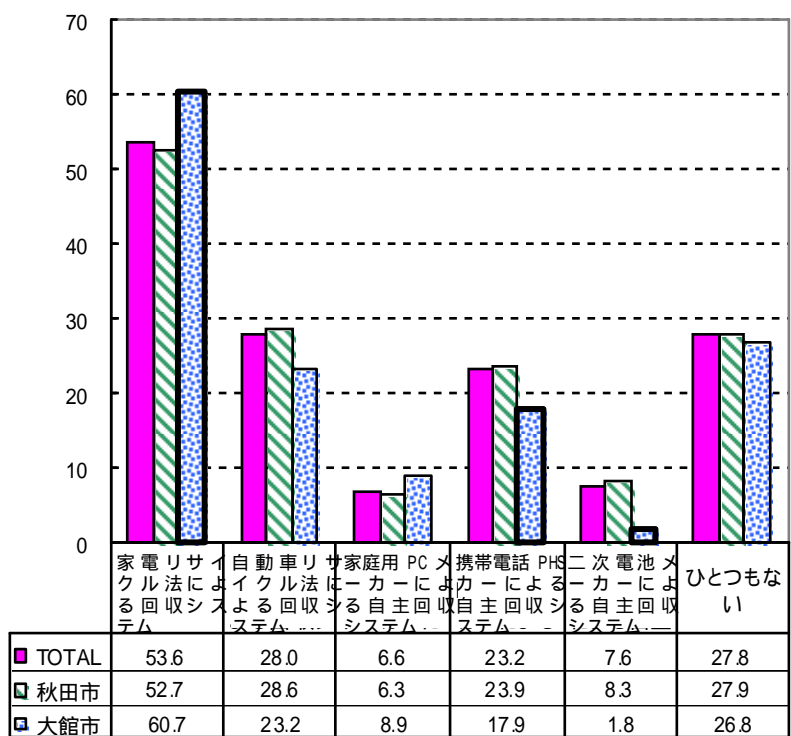
2) 利用したことのある法律あるいは回収システム(問16)

家電リサイクル法によって、使用済み家電製品を廃棄した経験があると答えた人の割合は53.6%であった。次いで、自動車リサイクル法が28.0%、携帯電話・PHSの回収システムが23.2%という回答であった。また、ひとつも利用したことがないと答えた人の割合は、27.8%であった。

実際に販売店での引取りをしていても、制度を利用している認識がないというケースも見受けられる。

男女別×年代別でも、家電リサイクル法については、いずれの層も利用したことがあるという回答が他に比べて多かったが、20代では男性、女性とも、どのシステムも利用したことがないという回答が、最も多かった。

大館市においては家電リサイクル施設が市内に存在することもあってか家電リサイクル法の知名度は高いものの、逆に携帯電話・二次電池の回収制度の知名度が低い傾向にある。

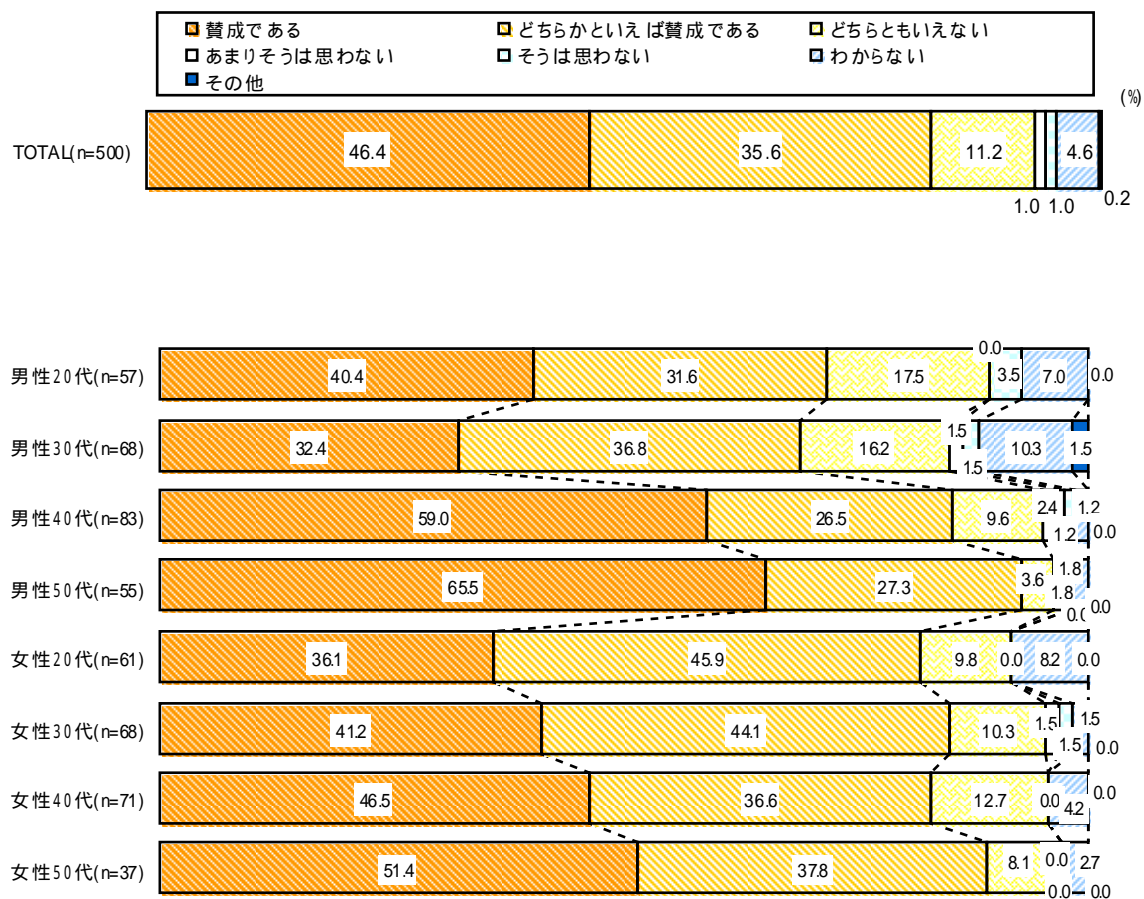


男性20代	57	40.4	22.8	5.3	19.3	5.3	43.9
男性30代	68	44.1	19.1	1.5	22.1	1.5	39.7
男性40代	83	60.2	37.3	8.4	20.5	18.1	15.7
男性50代	55	60.0	41.8	10.9	20.0	12.7	18.2
女性20代	61	34.4	14.8	6.6	26.2	3.3	39.3
女性30代	68	51.5	32.4	5.9	36.8	8.8	23.5
女性40代	71	69.0	26.8	7.0	12.7	2.8	23.9
女性50代	37	73.0	27.0	8.1	32.4	5.4	18.9

3) 「拡大製造者責任」という考え方について(問17)

拡大製造者責任の考え方に46.4%の人が賛成であると答えた。また、どちらかといえば賛成を加えると、82.0%となった。

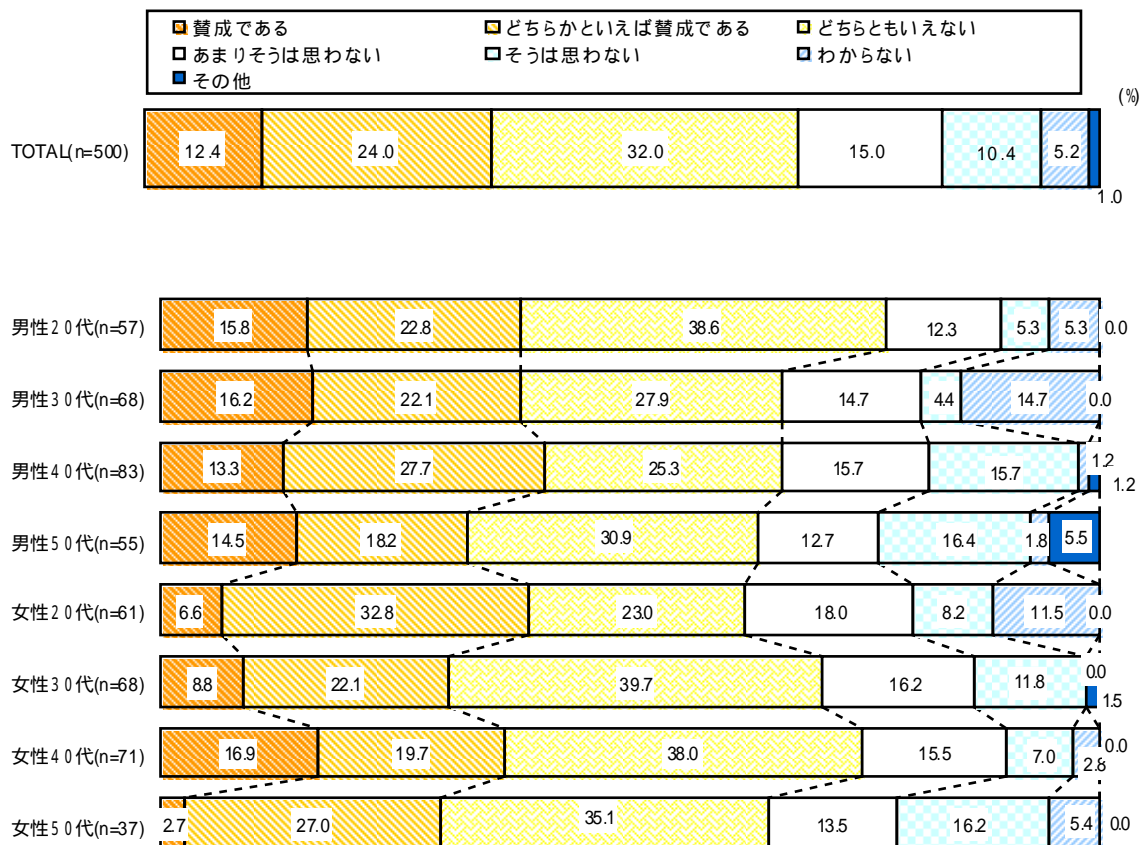
男女別×年代別で見ると、男性の40代、50代で、賛成であるという回答が多かった。また、男女とも、年齢が上になるほど、賛成であるという回答が多くなる傾向が見られた。



4) 「排出者責任」「利用者責任」という考え方について(問18)

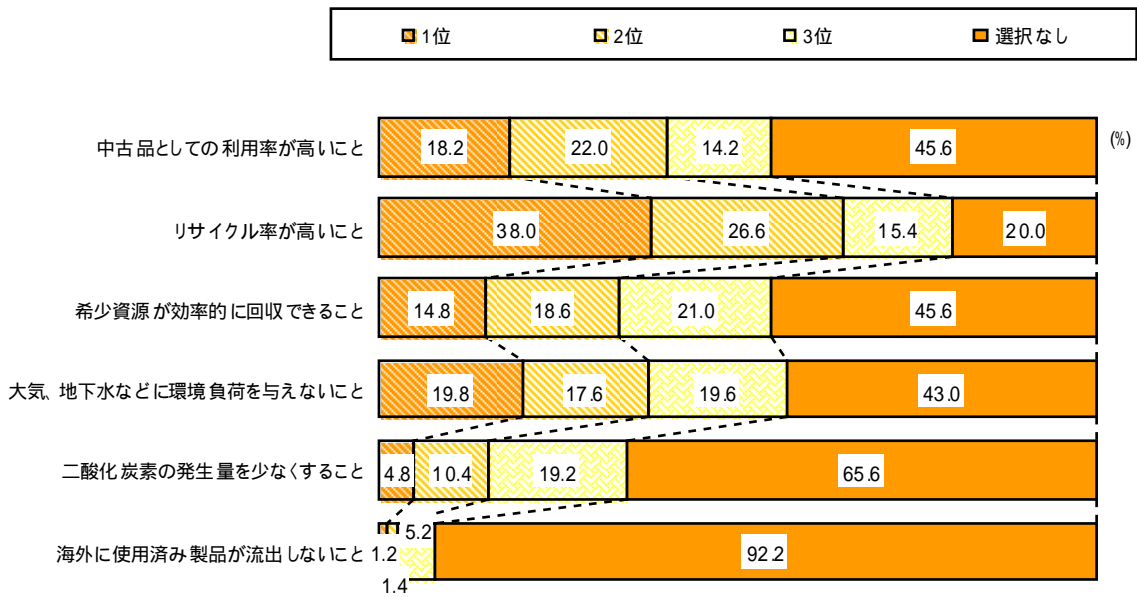
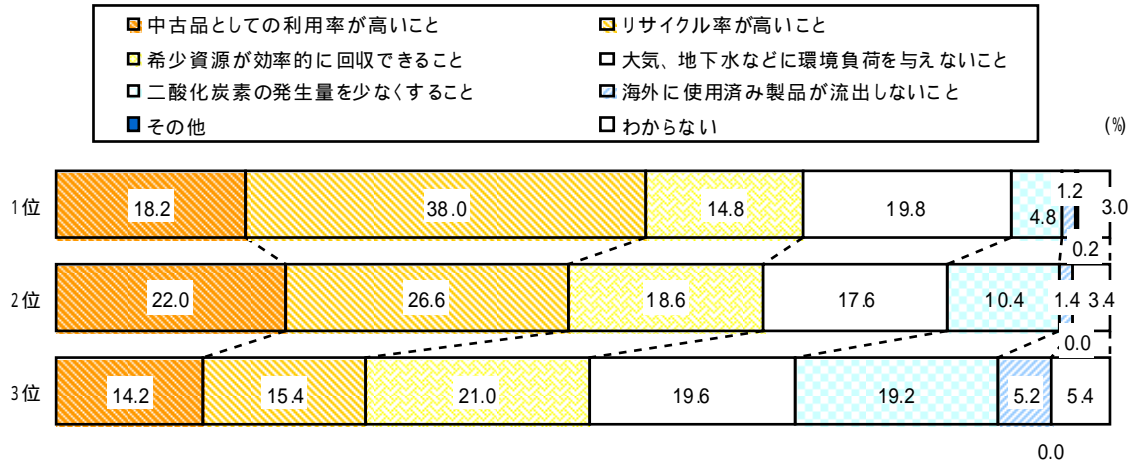
排出者責任・利用者責任という考え方に賛成であると答えた人は12.4%、どちらかといえば賛成であるという答えを加えても、36.4%であった。拡大製造者責任に比べて、賛成という答えは、少なかった。

男女別×年代別で比較すると、女性の方が、一般的に、賛成であると明確に答えた人の割合は少なかった。



5) 使用済み製品の取扱いに関して最も重要なこと(問19)

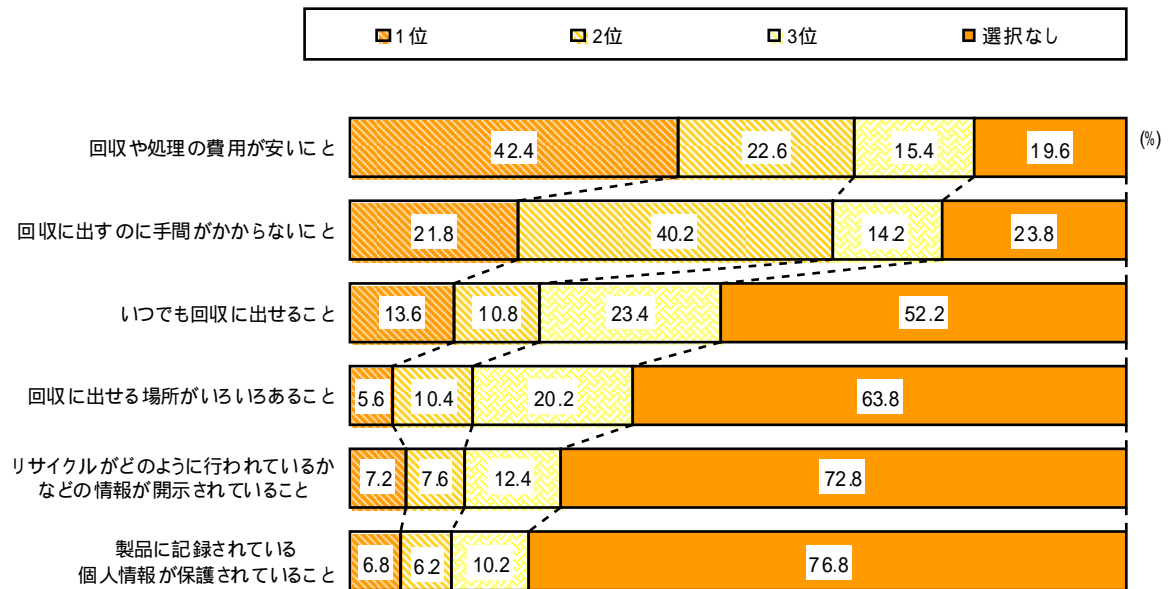
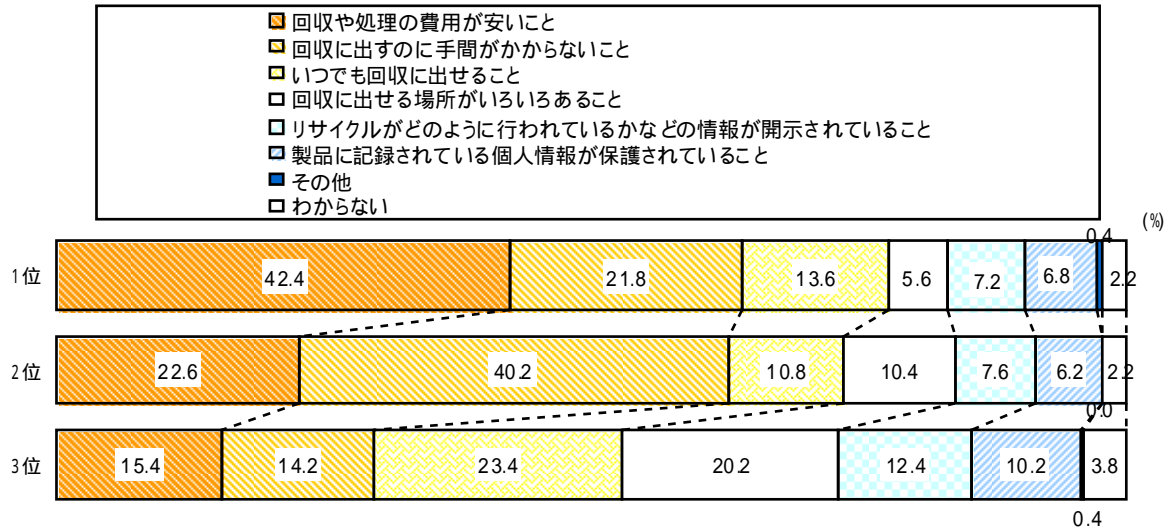
使用済み製品の取扱いに関して最も重要なこととしては、第一にリサイクル率が高いことがあげられた。次に、中古品としての利用率が高いことや、希少資源が効率的に回収できることが、あげられた。



Q 5 . 使用済み小型家電製品の回収システムに関する意見

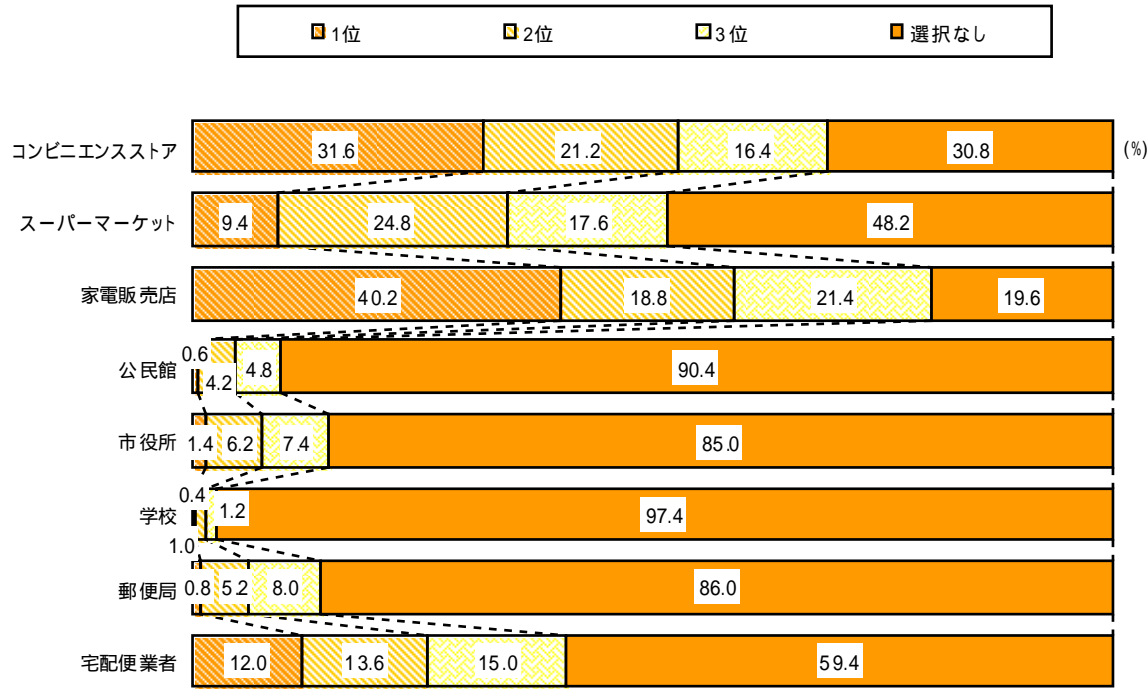
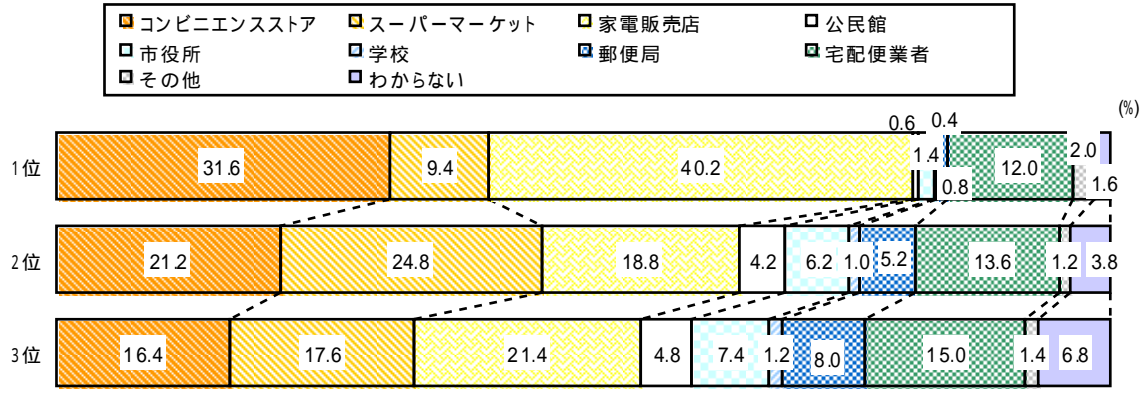
1) 使用済み小型家電製品の再資源化を推進していくために必要なこと(問 20)

使用済み小型家電製品の再資源化を推進していくために必要なこととしては、第1位に、回収や処理の費用が安いことがあげられた。次に、回収に出すのに手間がかからないこと、いつでも回収に出せることが順にあげられた。



2) 使用済み小型家電製品回収場所 (問 21)

使用済み小型家電製品の回収場所としては、家電販売店、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、そして、宅配便業者がよい(利用しやすい)という意見が多かったが、公民館、市役所、学校などの公共施設や郵便局をよいとする意見は少なかった。



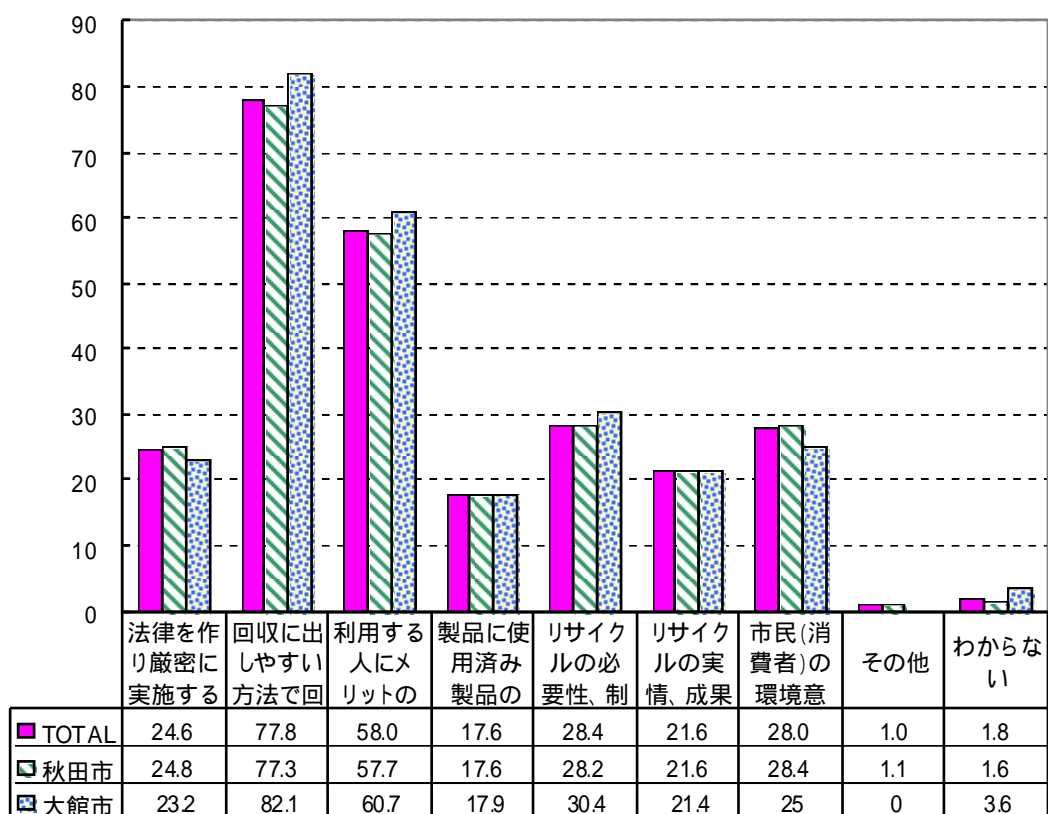
3) 回収方法に関するアイデア(自由回答)(問22)

使用済み小型家電製品の回収方法に関するアイデアを自由回答で聞いたところ、自治体で回収する(29人)、クーポン券や金券の発行など利用者にメリットを与える(27人)、身近な場所に回収ボックスを設置する(17人)といった意見が多かった。

	回答者数(人)	割合(%)
自治体で回収	29	5.8
利用者にメリットを与える	27	5.4
回収ボックスの設置	17	3.4
スーパーやコンビニで回収	13	2.6
宅配業者による回収	13	2.6
無料ゴミ回収業者による回収	12	2.4
家電量販店での回収	11	2.2
電話連絡による引取り	11	2.2
新たに購入した際に古いものと交換	10	2.0
リサイクル方法の告知を徹底する	7	1.4
デポジット制	5	1.0
メーカーで回収	3	0.6
その他	15	3.0
思い浮かばない	327	65.4

4) 使用済み小型家電製品の回収が社会的に定着するための条件(問23)

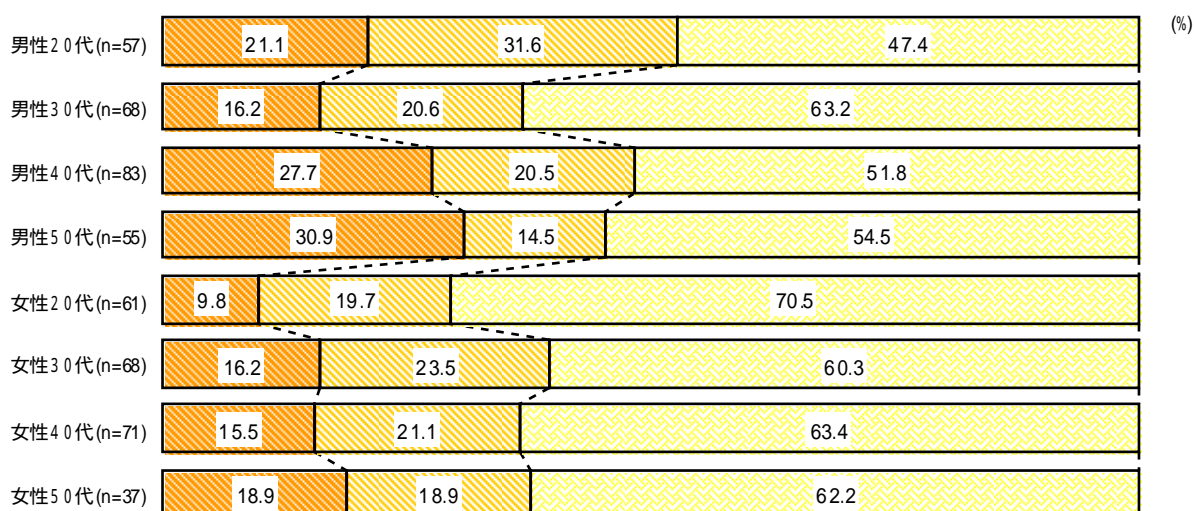
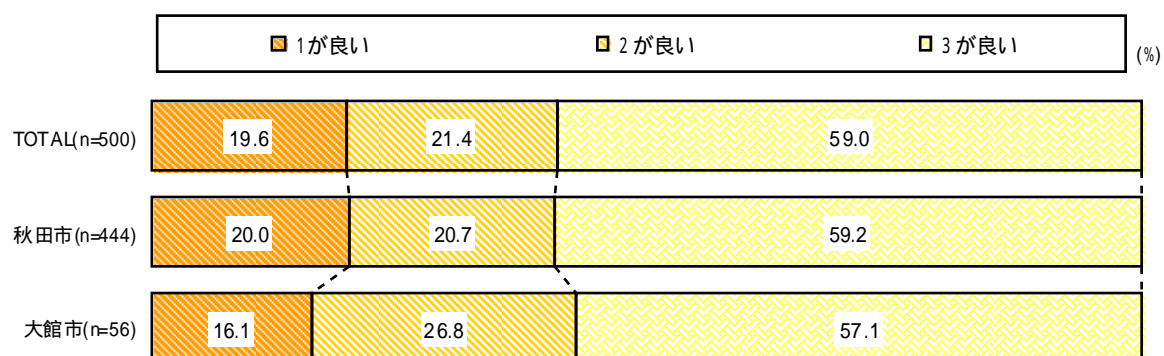
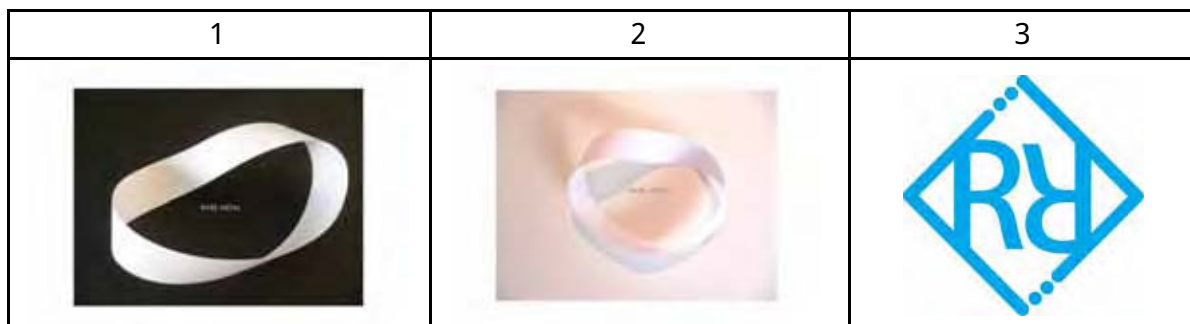
使用済み小型家電製品の回収が社会的に定着するための条件としては、回収に出しやすい方法で回収場所を設定する(77.8%)といった答えや、利用する人にメリットのある制度を作る(58.0%)といった答えが多かった。



男性20代	57	33.3	66.7	63.2	24.6	14.0	22.8	29.8	0.0	1.8
男性30代	68	29.4	73.5	52.9	10.3	33.8	10.3	20.6	2.9	5.9
男性40代	83	24.1	77.1	57.8	18.1	30.1	28.9	24.1	1.2	2.4
男性50代	55	29.1	72.7	47.3	18.2	40.0	14.5	32.7	0.0	3.6
女性20代	61	21.3	85.2	59.0	16.4	24.6	21.3	27.9	0.0	0.0
女性30代	68	17.6	79.4	69.1	13.2	17.6	30.9	38.2	2.9	0.0
女性40代	71	23.9	83.1	59.2	23.9	32.4	16.9	23.9	0.0	0.0
女性50代	37	16.2	86.5	51.4	16.2	37.8	27.0	29.7	0.0	0.0

5) 『こでんマーク』として最も良いと思うマーク (問 24)

小型家電製品の回収を推進するための『こでんマーク』というシンボルマークとして最もよいと思うものは、3番目のマークを挙げる意見が多かった。



6) 使用済み小型家電製品の地域でのリサイクルについての意見(自由回答)(問 25)

使用済み小型家電製品の地域でのリサイクルについての意見を自由回答で聞いたところ、リサイクル方法をわかりやすくし、周知徹底させる(29人)、ほしい人が持ち帰ることができるようなシステムを作る(12人)、手間をかけずにできるようにする(10人)といった意見が多かった。

	回答者数(人)	割合(%)
リサイクル方法を分かりやすくし、周知徹底させる	16	6.8
ほしい人が持ち帰ることができるようなシステム(リサイクル)	12	5.1
手間をかけずにできること	10	4.3
利用者にメリットがあるシステム作り	7	3.0
自治体による回収	7	3.0
修理することにより長く使うことができるようにする	6	2.6
更なる意識啓発が必要	6	2.6
環境整備の推進	5	2.1
無料で回収して欲しい	5	2.1
メーカーがもっと考えるべき	4	1.7
デポジット制	3	1.3
情報の流出漏えい対策	3	1.3
ネットワーク強化	2	0.9
もっと情報を公開して欲しい	2	0.9
もっと積極的な取組みが必要	2	0.9
特になし・分からない	121	51.7
その他	23	9.8

有効回答数 n=234